●編集・発行 一般社団法人 雇用問題研究会
●https://www.koyoerc.or.jp

職業研究

2023
No.2

特集 ●アセスメント・ツール活用事例集

アセスメント・ツールとしての適性検査の意義と効用
帝京大学 宇都宮キャンパスリベラルアーツセンター 教授　横山明子

活用事例

●総合学科高校での系列・科目選択、進学の際の学部・学科選びに
東京都立晴海総合高等学校 キャリアカウンセラー　千葉吉裕

●高校での文理選択のヒントとして

●職場適応支援におけるGATBの活用と課題
近畿大学 教職教育部 准教授　向後礼子

●家電量販店に入社して2年、今の仕事は苦手で転職したい

●商社の営業職志望からIT業界SEに方向転換
●キャリア・インサイトの活用
こころとキャリアのカウンセリングオフィス結 代表　山本公子

●大学生と職業興味
熊本学園大学 講師　大山佳三

社会人に受けていただきました　VRT／GATB

●編集・発行
〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-14-5 日本橋Kビル2階●電話 03-5651-7071
一般社団法人 雇用問題研究会 https://www.koyoerc.or.jp

職業研究

2023 No.2
●2023年5月20日発行

特集

アセスメント・ツール活用事例集

—キャリアカウンセリングとキャリア教育の現場から—

生徒や学生が自分に合った進路（職業、学部学科等）を検討し、選択する際、自分の個性と職業との相性＝「職業適性」について考えることはとても大切です。
特に働いた経験のない生徒・学生にとって、アセスメント・ツールは自己理解を深め、自分と職業の世界を結びつけて考える大きなきっかけとなります。そして、目的に合った検査を実施することで、効果的なキャリア支援につなげることができます。
また、本人の特性や今までの経験、価値観などから、検査結果の受け止め方は一人ひとり異なるものです。実施後は、支援者が被検者の思いを丁寧に聞きながら、検査結果を素材に将来について検討していくことが重要です。
今号では、過去のキャリアカウンセリング事例から、アセスメント・ツールをうまく活用して効果を挙げたケースを紹介します。

特集

巻頭言
アセスメント・ツールとしての適性検査の意義と効用
横山明子 帝京大学 宇都宮キャンパスリベラルアーツセンター 教授 ―― 4

カウンセリング事例
総合学科高校での系列・科目選択、進学の際の学部・学科選びに
千葉吉裕 東京都立晴海総合高等学校 キャリアカウンセラー ―― 6

高校での文理選択のヒントとして
—自分は何が得意なのか能力的特徴を知る—
編集部 ―― 8

職場適応支援におけるGATBの活用と課題
—学習障害を診断された事例から—
向後礼子 近畿大学 教職教育部 准教授 ―― 10

商社の営業職志望からIT業界SEに方向転換
山本公子 こころとキャリアのカウンセリングオフィス結 代表 ―― 12

家電量販店に入社して２年、今の仕事は苦手で転職したい
—転職に向けた就職支援機関での適性検討—
編集部 ―― 14

キャリア・インサイトの活用
—大学等における実践例—
山本公子 こころとキャリアのカウンセリングオフィス結 代表 ―― 16

インタビュー
社会人に受けていただきました ―― 18
●VRT×料理人
●GATB×コピーライター

実践事例
大学生と職業興味
—職業レディネス・テスト（VRT）を活用した実践事例—
大山佳三 熊本学園大学 講師 ―― 20

アセスメント・ツールの概要 ―― 25
●職業レディネス・テスト（VRT）
●厚生労働省編一般職業適性検査［進路指導・職業指導用］（GATB）

「職業研究」バックナンバーのご案内

ホームページ内「職業研究」ページでは、本誌バックナンバーがPDFファイルでご覧いただけます。テーマ別に特集記事を探すこともできます。
キャリア支援のヒントとしてご活用ください。
▶https://www.koyoerc.or.jp

掲載している活用事例は、執筆者の個人的見解に基づいてお書きいただいており、参考としてご紹介しているものです。
また、執筆者の所属・肩書は執筆当時のものです。

特集

アセスメント・ツール活用事例集

―キャリアカウンセリングとキャリア教育の現場から―

今回は、本誌バックナンバーから「職業レディネス・テスト（VRT）」と「厚生労働省編一般職業適性検査（GATB）」、「キャリア・インサイト」を活用した高校から社会人までのキャリアカウンセリング事例をピックアップしました。教育現場および職業相談機関におけるアセスメント・ツール活用の参考としていただければ幸いです。

「職業適性」と「実施の目的」からアセスメント・ツールを選ぶ

「職業適性」は、「能力」と「興味（パーソナリティ）」の２つの側面から検討することが基本となります。
VRTでは興味を生かせる職業を、GATBでは得意な能力を生かせる職業を具体的に知ることができるため、「実施の目的」に合わせてアセスメント・ツールを選択することが有効な活用につながります。

職業適性

- **能力**
  - 適性能（潜在能力） → GATB 厚生労働省編一般職業適性検査［進路指導・職業指導用］（GATB） ▶ 事例 2～5
  - 知識・技能（仕事の遂行能力）
- **パーソナリティ**
  - 興味・志向性 → VRT 職業レディネス・テスト（VRT） ▶ 事例 1・4・5
  - 性　格 → KN（進路指導用） KN式クレペリン作業性格検査
  - 価値観 → CAREER Insites® キャリア・インサイト ▶ 事例 6

実施の目的

- **中学校**
  - 2年生 VRT：職場体験前に実施し、職業の世界への関心を喚起する。体験する職場を選択するための参考にすることもできる。自分の興味・関心を把握し、それらを生かせる仕事は何かを知る。
  - 3年生 GATB：自分の能力の特徴を把握し、それらを生かせる仕事は何かを知る。卒業後の進路や職業選択について検討するための資料とする。
- **高　校**
  - 1年生 VRT：興味・関心を把握し、文理選択や総合学科のコース選択時の参考にする。
  - 2年生 GATB：
    - 主に進学希望者：能力の特徴を把握し、得意な能力を生かした将来の職業選択について検討し、卒業後の学部学科等選択の参考にする。
    - 主に就職希望者：能力の特徴を把握し、得意な能力を生かした職業選択について検討するための資料とする。

    ▶ 事例 1・2
- **大学・短大 専門学校**
  - 1・2年生 VRT：職業への意識を喚起し、早いうちから職業についての意識を持った大学生活を送るきっかけとする。興味・関心を把握し、興味の特徴を生かした将来の職業選択について検討するための資料とする。
  - 3年生 CAREER Insites®：４つの側面（興味、能力、価値観、行動特性）の特徴を把握し、各特徴を生かした職業選択について検討する。

  ▶ 事例 3～6
- **共通** KN式クレペリン作業性格検査：作業性格や作業態度、行動特徴により、学校生活への適応や危険作業・運転などへの適性を把握するための資料として活用する。

アセスメント・ツールとしての適性検査の意義と効用

帝京大学　宇都宮キャンパスリベラルアーツセンター
教授
横山明子

キャリアガイダンスやキャリアカウンセリングにおいては、様々な適性検査が用いられる。この適性検査には、知能や汎用的能力などの「能力」を測定する検査、性格や興味などの「人格」を測定する検査、さらに、職務遂行能力や特定の職業分野に関する職業適性検査などがある。これらの検査は、クライアントの様々な特性を明らかにするだけでなく、この検査によって、希望する職業や業務に対して適性があるかどうかについて評価とアセスメントを行うことができる。本稿では、この適性検査について取り上げ、アセスメント・ツールとしての意義と効用について考えてみたい。

「アセスメント(assessment)」と「評価(evaluation)」について

適性検査を行う場合に大切なことは、「評価(evaluation)」と「アセスメント・査定(assessment)」との違いを認識することである。この両者はいずれもクライアントの特性を把握するために行うが、検査の結果をどのように用いるのかによって区別される。前者の「評価(evaluation)」とは、もともとは学校などの教育活動の中で、教育目標に照らして、生徒や学生の学習の結果や成果がどの程度達成されたかについて最終的に判断することである[1]。一方、「アセスメント・査定(assessment)」は、学習の結果、及び教育目標の達成に向けての最善の方策に関する情報をフィードバックし、さらに、様々な教育活動を継続的に行うことを意味している。

このことを職業適性検査にあてはめると、「評価(evaluation)」は、クライアントがある特性や職業分野に対してどの程度適合しているかを最終的に判断することである。一方、「アセスメント・査定(assessment)」とは、検査結果と、職業選択のための様々な情報をクライアントにフィードバックすることによって、自己理解を促進し、今後、どのように活動を進めるかを考え実践していくことである。

ここで、クライアントにフィードバックされる情報は、単にある特性や職業に対しての最終的な適合度だけではなく、様々な特性を示すプロフィールや、適合度の高い職業名やその職務内容など多様な情報である。そのため、クライアントは、これらの情報を活用して、これまで知り得なかった特性への理解を深め、希望する職業や職種の幅を広げることができる。このことから、職業適性検査は「評価ツール」にとどまらず、「アセスメント・ツール」として位置づけることができる。

「適性」とはどのようなことか

次に、このような適性検査を用いる場合、検査によって測定される「適性」は重要な概念である。そこで、この「適性」について明らかにしておきたい。

通常、適性検査を受検した場合に、ある特性に対して最終的に、適性が「ある」「ない」、または、適性が「高い」「低い」と示されることが多く、クライアントは一元的に考えることが多い。そのため、この検査結果を見て、自分が希望する職業に就けないと失望し、予想外の結果であった場合には混乱してしまう。たとえ検査結果とともに、様々な特性や職業分野に関する情報が提供されても、クライアントは、この結果は、現時点でのある分野に対する適合度であると捉え、将来、発達するであろう適性に注目するということは非常に少ない。

この「適性」は、能力に関する側面、人格に関する側面、身体的特徴に区分される。能力に関する側面には、知能、運動能力、学力、技能、特技などが含まれ、人格に関する側面には、性格、興味や関心、価値観、態度などが挙げられる。さらに、身体的特徴とは、体格や体力、健康に関することである。このような「適性」に関する考え方に対して、スーパー(Super, D. E.)は、特に、能力に関して「未開発のもの」が含まれることを示している。すなわち、「適性」を現時点のものと限定的に考えるのではなく、将来、本人の努力によって発達する可能性を含めて「適性」をとらえる考え方である。

このような考え方に基づくと、特にクライアントの興味や関心が高い分野においては、「好きこそものの上手なれ」という言葉が示すように、現時点で能力がそれほど高くなくても、長い間粘り強く取り組んでいるうちに「能力」

が大きく伸長する場合もある。そのことによって、職業分野や職務について新たな適性が見いだされる可能性があるのである。さらに、職業適性検査で示される結果は、キャリアカウンセリングの場面で、クライアントの新たな可能性を発見し、将来の職業選択肢を増やし、その実現可能性を考えるための資料として活用できるのである。

適性検査の意義と効用

キャリアカウンセリングでは、様々な心理検査が適性検査として用いられるが、検査を行う目的として次の4点が挙げられている[2]。

① 深層心理の解明とカタルシス

投映法などの検査の場合、自分の抑圧された感情や問題が明らかになり、クライアントにとってはカタルシス(浄化)を経験することになる。これは、普段意識していない考えや感情を意識化することであり、特に、不安に思っていたことが明らかになり、クライアント自身に安心感と開放感をもたらすのである。

② 短時間で多面的な情報の収集

通常、クライアントの状況を知るためには、クライアントの考えや感じ方などを長い時間をかけて傾聴し理解する必要がある。しかしながら、特に、自分の気持ちや考えを言語化することが難しいクライアントの場合や、相談の時間が限られている場合には、いくつかの検査を併用することによって、問題を焦点化して短時間に有用な情報を得ることが可能である。

さらに、特に職業適性検査においては、自分の遂行能力や興味が高い職業分野が示されるだけではなく、その分野の具体的な職業名や職種、さらにその分野で活躍するための知識やスキルについての情報が提供される。そのため、特に、進学などを考えている若年層の場合に、また、リスキリングを望む積極的なクライアントの場合には、進学前に多種類の情報を知っておくことが、進学後の学習に対するモチベーションの高さに影響する。

③ 自己理解の促進

アセスメント・ツールとして適性検査を用いた場合には、提供される様々な情報によって自己理解が促進されるが、それと同時に、カウンセラーにとっても、クライアントへの洞察が深まる。

適性検査の結果についての受け止め方は、いくつかに分かれる。まず、クライアントにフィードバックされた結果と情報に対して、自分が普段考えていた通りであり、自分の適性が確認できたという場合がある。また、検査結果が予想と違っていたが、新たな発見があってよかったと肯定的に受け入れるクライアントもいる。このような場合には、フィードバックされる情報から、今まであまり考慮してこなかった職業に関する知識などを得ることができるため、今後の進路を考えるために有用な情報が得られたと感じているのである。

その一方で、示された結果が自分の予想と大幅に違っていた場合に、検査結果を受け入れることができずに混乱してしまうクライアントもいる。このような場合には、もともと自己理解が十分ではなく、普段思い描いている自己像と結果で示された内容が大きく異なっていることからそのように感じるのである。このような場合には、結果だけでなくそこで提供される情報から、じっくりと自分を見つめなおし、今後のキャリアビジョンを持てるよう支援を行っていくことが重要である。

私が、適性検査の活用法に関する講習会に参加した際に、適性検査の作成者から「適性検査は、天気予報のようなものである」ということをお聞きしたことがある。これは、適性が低いと判定された進路を強く希望しているクライアントがいた場合、その進路に進むことを断念させるかどうかという重大な問題と関連している。例えば、私たちが待ちに待ったレジャーに出かける日に、天候が悪くなると予報が出た時はどうするであろうか。台風来襲などのよほどの悪天候が予想されている場合を除いて、風雨対策をして、多少の計画変更をしても出かけることが多いのではないだろうか。この例のように、適性検査の結果の判定は全てではなく、その進路に進んだ場合には困難が伴うことを知ったうえでクライアントの強い希望と意思を尊重していくことも大切なことである。

④ リレーションの形成

適性検査をアセスメント・ツールとして用いてカウンセリングを行うことは、クライアントとの関係性を深めるということである。すなわち、カウンセラーが適性検査の結果についてクライアントとコミュニケーションをとり、クライアントの状態を共感的に理解することによって、カウンセラーへの信頼が一層高まるのである。こうして、カウンセラーがクライアントの姿を映す「鏡」の役割となることができれば、クライアントの自己理解は一層深まり、その後の活動も積極的に実践できるようになるであろう。

このように、アセスメント・ツールとして適性検査を活用しカウンセリングを行うことによって、クライアントは不安が解消され、自己洞察を深め、新たな自分を発見することができる。この両者で共有した時間が、クライアントに大きな成長をもたらす有意義な時間になることを忘れてはならない。

【引用文献】

(1) 京都大学高等教育研究開発推進センター 教育アセスメント http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/assessment/(2023年3月1日アクセス)

(2) 野々村新「第4章 児童生徒理解の意義と内容」(横山明子編著「生徒指導・進路指導・キャリア教育論 主体的な生き方を育むための理論と実践」図書文化社、pp. 73-94)、2019

総合学科高校での系列・科目選択、進学の際の学部・学科選びに

カウンセリング事例1
VRT×高校

東京都立晴海総合高等学校
キャリアカウンセラー
千葉吉裕

総合学科高校における「職業レディネス・テスト」の活用

総合学科とは、普通科、専門学科に加え、平成6年度に創設された学科です。大きな特色は、幅広い選択科目が用意され、その中から生徒自ら科目を選択し、学ぶことができるシステムを備えていることです。ほとんどの学校では、1年次に、総合学科の必履修科目「産業社会と人間」という科目が設けられています。その科目を通して、自己理解を深め、将来活躍する未来社会を思い描き、ライフプランを立て、自己の進路への自覚を深めていきます。キャリアビジョンを持って、主体的に科目を選択することで、意欲的な学習を行うことができるわけです。

このように、総合学科では、選択の機会が設けられているため、「職業レディネス・テスト（VRT）」は自己の特性を把握するアセスメント・ツールとしてたいへん役立ちます。

系列・科目選択の場面での活用

やみくもに科目を選択してしまうと、体系だった学びができなくなることから、総合学科には「系列」と呼ばれる選択科目群があります。本校では、2年次から「情報システム」「国際ビジネス」「語学コミュニケーション」「芸術・文化」「自然科学」「社会・経済」の六つの系列のうち、いずれかを選択し、学ぶことになります。

5月、「産業社会と人間」の授業の中で、1年生全員にVRTを実施し、全体に対して解説を行います。10月、系列・科目選択の検討時期に再度、希望者にVRTを実施し、その結果をもとに面談活動を行っています。

VRTが優れている点は、検査時間が短く、自己採点で結果を出せるため、面談の直前に検査したもので判定できることです。どのような意図で回答したのかを聞きながら判定できるので、プロフィールの微妙な読み取りも可能にしてくれます。高校生用のほかの興味検査は、回答用紙を業者に送り、数週間後に結果票が送られてきても、判定の仕組みがブラックボックス化しており、結果がしっくりこなかったり、逆に検査をしなくてもわかるようなものだったりと、活用できないことがしばしば起こります。

VRTは性格を読み取ることもできるので、日常あまり面識のない生徒の行動パターンや好みなどをプロフィールから読み取ることもできます。生徒には「占い師」のようだと驚かれます。

学部・学科選びでの活用

高校卒業後の進路選択指導は、高校教師にとって重要な仕事の一つです。

VRTは、名称から誤解されることが多いのですが、就職指導でしか使えないと勘違いしている高校教師は少なくありません。四年制大学・短期大学・専門学校の学部・学科の特徴を理解していれば、VRTのプロフィールから、どの学部・学科に興味を持つか判断することができます。それぞれの学部・学科の卒業生が就職する主な職業を調べることによっても、判断することができます。

例えば、「R 現実的」が高ければ、農学部・工学部・工芸学科・調理学科など、「I 研究的」が高ければ、医薬理工系など、「A 芸術的」が高ければ、芸術学部・文学部・演劇学科など、「E 企業的」が高ければ経営学部や歴史学科など、「C 慣習的」は法学部、商業系・簿記・ビジネス系など、興味を持ちそうな学部・学科の学校案内などを見せて、自分の興味とのフィット具合を確認させます。高校生は、知っている世界が狭いため、自分が興味を持てそうな学部・学科を見つけることにたいへん苦労します。

事例① 看護師を希望するAさん

彼女は、小学校時代の入院経験がきっかけで、看護師を希望するようになった高校1年生の女子生徒で、面倒見もよく、頑張り屋で、友人からの信望も厚く、心優しく、人気者だ。彼女は、小さいときからの夢を実現したいと、2年次から、生物・化学・数学Ⅱという科目を取りたいと希望していた。

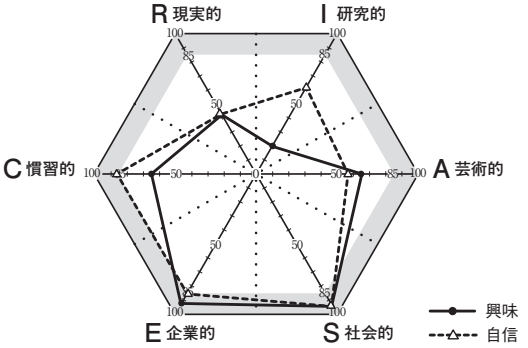
VRTを実施したところ、「S 社会的」「E 企業的」がともに高く、「I 研究的」「R 現実的」が低いというプロフィール

になった。「I 研究的」が低いことから、理系科目への興味が心配されたので、生物や化学は好きかと尋ねたところ、あまり好きではないとのこと。看護師になる夢はあきらめられないと言って、嫌いでも頑張ると言い張る。

しかし、看護師を続ける限り、理科について学び続けなければならず、知識を持っているかいないかで患者の生死を分かつことにもなりかねない。そのような重大な責務があることを話した。サービス職や販売職、福祉系の職業なども提案し、しばらく考えたいと返答。数日後、ここで看護師をあきらめるのは心残りなので、2年次で、理科を学んでみて、苦手意識を確認したいと申し出てきた。看護師以外の職業についても調べてみて、将来の進路を探究してみると、前向きに話していたのが印象的だった。2年次の時間割は、理科系科目だけにならないように配慮しながら、作成することにした。

理科系科目が嫌いにもかかわらず、「S 社会的」の高い生徒で看護師を目指すケースはよく見受けられる。看護系に進学したあと、ミスマッチに気づくこともあり、VRTの実施により、ミスマッチを未然に防ぐのに活用することができる。

事例①　VRT　結果プロフィール



事例② ブライダルコーディネーターを希望するBさん

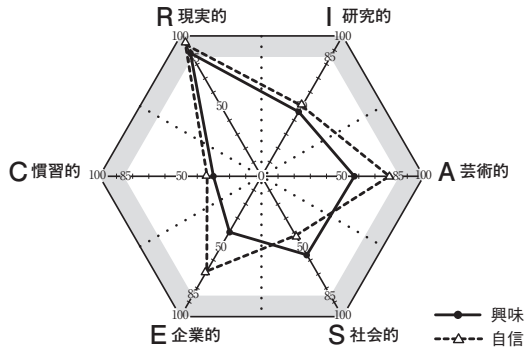
グランドスタッフに就きたいという友人と一緒に相談に来た1年生のBさんは、結婚式の華やかさに憧れてブライダルコーディネーターに就きたいと語っていた。

VRTを実施したところ、「S 社会的」「E 企業的」も高くはなく、「R 現実的」が高いという結果になった。「工芸や、栽培、飼育に興味が出ているんだけれど」と話したところ、実は仏像を見るのがとても好きで、鎌倉までよく足を運ぶことがあるという話になった。伝統工芸系の専門学校のパンフレットを見せたところ、興味を持ち、体験入学に行ってみたいと言い出した。体験入学などに参加するうちに、ブライダルコーディネーターに就きたいという話は全くしなくなった。

当初、商業科目を中心にビジネス系の科目を選択するつもりだったが、最終的に美術工芸の科目を中心に選択することになった。

憧れの職業について、表面的な職業イメージだけで職業を選ぶことは、中学生・高校生の時期にしばしば起こる事象である。自分の興味分野を適切に表現できる生徒のほうが少ないように感じられるくらいだ。本人だけの主張を鵜呑みにすることなく、客観的な検査結果をもとに判定することはとても大切だと感じている。また、頭の中でイメージするだけでなく、実際に体験したり、インタビューしたりすることによって、自己理解を深め、進路情報を適切に活用できるようになるものである。

事例②　VRT　結果プロフィール



事例③ 服飾系の専門学校を希望するCくん

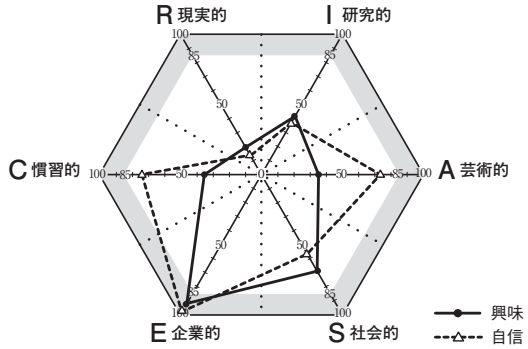
服飾デザインや縫製技術についてしっかり学びたいと言っていたCくん。服飾販売に強い関心があるとのことだった。

VRTを実施したところ、「R 現実的」「A 芸術的」が低いというプロフィールになった。「E 企業的」が高いので、経営系が向くことを伝えると、将来、アパレル系の店舗を持つことが夢で、そのためには、服飾デザインや縫製技術について知っておくと、きっと役に立つと考えたとのこと。「E 企業的」が高いことから、戦略的思考性を備えているために、服飾系の専門学校を志望してしまったようだ。四年制大学の経営学部の学校案内を見せると、服飾系の専門学校より興味を持てそうな講座が設置されていると話していた。オープンキャンパスに赴き、最終的には経営学部への進学を決定した。

生徒一人ひとりの進路希望には本人なりの理由はあるものの、その理由に対して妥当な進路希望なのか相談を通して検討していく活動はとても大切な指導である。

（「職業研究」2016 No.1より）

事例③　VRT　結果プロフィール



※各事例は、本人が特定できない程度に変更を加えています。

高校での文理選択のヒントとして

―自分は何が得意なのか能力的特徴を知る―

カウンセリング事例2
GATB×高校

編集部

事例
県立高校普通科1年生
武くん（男子／仮名）と担任教師の秋の面談から

武くんのことば

●テニスの部活に打ち込む

中学1年からテニスを続けている。小学生の時はずっと近所のチームで野球をやっていて甲子園に憧れてたりした。中学でテニス部に入ったのは、野球部がなかったから。校庭の広さの問題だったらしいけど、入学時は悔しく思った。結構強打者と言われてたのに。これで甲子園の夢はなくなったな、と。

でも、テニスもやってみると面白いもんで、だんだん熱中するようになった。練習にも真面目に頑張って取り組んだし、2年の時に市の大会でベスト8まで進んだ。高校でも迷わずテニス部に入った。

●医療の仕事

中3の時、テニスの練習中に足を骨折してしまった。しばらく通院したが、その時の病院の医師、看護師の対応がいまだに強く印象に残っている。それまで病気もケガもほとんどしたことがなかったこともあって不安だったが、看護師さんはどうすれば患者が安心できるかよくわかっていて、自然に温かく接してくれた。また、医師がケガの状態や今後の進め方などをわかりやすく説明してくれたので、自分で理解・納得して治療を受けられた。信頼できる専門家という感じだったし、率直に感謝の気持ちが生じた。多少日常生活に不自由が生じたけれど、治るまで前向きに通院を続けられたのではないかと思っている。

そこで医師や看護師に感じたのは、おそらく「プロフェッショナル」ということだと思うが、その時その場面で必要とされていることを最も適切に提供できるということ、それはそうしなければならないという厳しさを伴うわけだけど、やっぱりそれがプロだな、と。そして、日々の仕事そのものが患者に感謝されることに直結する。

それで医療分野に関心を持った。さすがに医者は無理だけど、医療関連の仕事はいろいろあるみたいなので、知りたいと思うようになった。

考えてみると、テニスって相手の嫌がるところに球を打つのが基本で、いかに裏をかくか、いかに打ち負かすかっていう競技。より意地悪になれたほうが勝ち。対戦競技は全部そうなのかもしれないけど。なんか医者と患者の関係というのと対極にあるみたいな気もして、正直、練習中に時々冷めた気分になることもある、最近。

●得意科目など

得意な科目は数学。暗算なんかはわりと楽にできるし、筋道立てて考えて問題を解くというのがいい。明快であいまいな部分がないというか。自分では理数系に向いてるのかなと思い、6月の進路希望調査では理系を選択した。

好きな科目は、体育とか生物。練習すれば上手くなる、ある程度結果が出る、というところが体育にはあるから。水泳やマラソンなどより、好きなのは球技系。生物も対象がはっきりしているというか、生き物はモノとして目に見えるからわかりやすい。

国語は嫌いじゃないけど、例えば文学作品の解釈なんて人それぞれのはずなのに、試験で「彼はその時どう思ったか」みたいな問題が出ると、正解なんてあるのかって気がしてどうも苦手。

社会の科目なんかも、歴史とか制度、システムっていうのは、過去にあった、あるいは今実在してるのかもしれないけど、どうもカタチのない概念の世界の話みたいで、あまり得意とは言えないかな。実体が確かなもののほうが好きなんだと思う。

●GATBを受けてみて

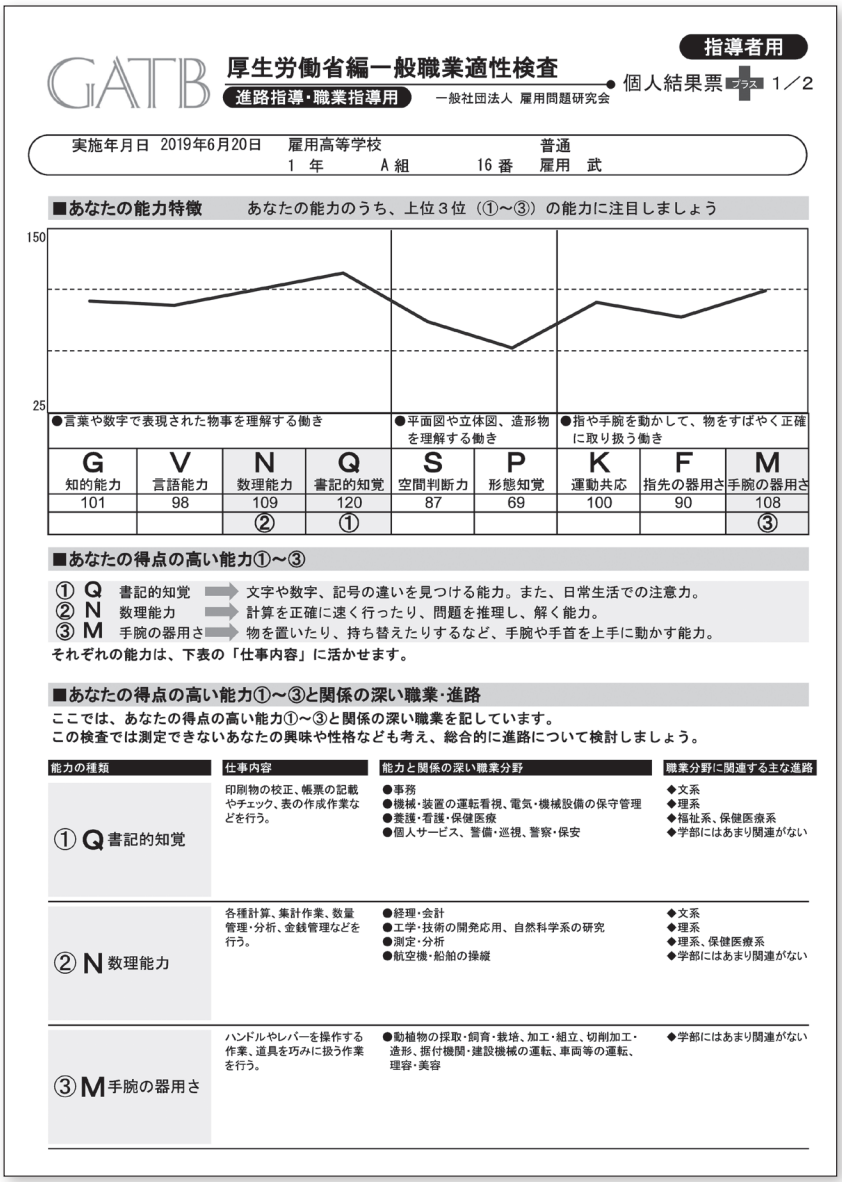
検査は結構な集中が必要で、疲れた。でも、結果を見ると納得できる気はした。書記的知覚というのは注意力みたいなものらしく、自分でもどちらかというと几帳面タイプだと思うし、細かいところに気がつくほう。よく注意深く観察しているね、と言われたりする。ガサツなのは嫌いだし。

数理能力が高いって出たのは嬉しい。大学に進学するつもりだが、理系の学部に傾いてきたかな。

実験したり、計算・集計して数値化されたデータを分析するとかいった勉強には興味がある。

医療関係の仕事には、通院していた病院の医師・スタッフの親切さが有難かったという経験があったから関心を持ったわけだけど、数理的な面を活かせる職業がないかなどについても知りたい。

武くんのGATBの結果



GATB 厚生労働省編一般職業適性検査 進路指導・職業指導用 一般社団法人 雇用問題研究会 指導者用 個人結果票プラス 1／2

実施年月日 2019年6月20日 雇用高等学校 1 年 A 組 16 番 普通 雇用 武

■あなたの能力特徴 あなたの能力のうち、上位３位（①～③）の能力に注目しましょう

150 / 25

●言葉や数字で表現された物事を理解する働き ●平面図や立体図、造形物を理解する働き ●指や手腕を動かして、物をすばやく正確に取り扱う働き

G 知的能力	V 言語能力	N 数理能力	Q 書記的知覚	S 空間判断力	P 形態知覚	K 運動共応	F 指先の器用さ	M 手腕の器用さ
101	98	109	120	87	69	100	90	108
		②	①					③

■あなたの得点の高い能力①～③

① Q 書記的知覚 → 文字や数字、記号の違いを見つける能力。また、日常生活での注意力。
② N 数理能力 → 計算を正確に速く行ったり、問題を推理し、解く能力。
③ M 手腕の器用さ → 物を置いたり、持ち替えたりするなど、手腕や手首を上手に動かす能力。

それぞれの能力は、下表の「仕事内容」に活かせます。

■あなたの得点の高い能力①～③と関係の深い職業・進路

ここでは、あなたの得点の高い能力①～③と関係の深い職業を記しています。
この検査では測定できないあなたの興味や性格なども考え、総合的に進路について検討しましょう。

能力の種類	仕事内容	能力と関係の深い職業分野	職業分野に関連する主な進路
① Q 書記的知覚	印刷物の校正、帳票の記載やチェック、表の作成作業などを行う。	●事務 ●機械・装置の運転看視、電気・機械設備の保守管理 ●養護・看護・保健医療 ●個人サービス、警備・巡視、警察・保安	◆文系 ◆理系 ◆福祉系、保健医療系 ◆学部にはあまり関連がない
② N 数理能力	各種計算、集計作業、数量管理・分析、金銭管理などを行う。	●経理・会計 ●工学・技術の開発応用、自然科学系の研究 ●測定・分析 ●航空機・船舶の操縦	◆文系 ◆理系 ◆理系、保健医療系 ◆学部にはあまり関連がない
③ M 手腕の器用さ	ハンドルやレバーを操作する作業、道具を巧みに扱う作業を行う。	●動植物の採取・飼育・栽培、加工・組立、切削加工・造形、掘付機関・建設機械の運転、車両等の運転、理容・美容	◆学部にはあまり関連がない

Q（書記的知覚）、N（数理能力）、M（手腕の器用さ）の順に得点が高い。
120、109、108といずれも100点以上で、高校生の平均点を上回っている。
他にもG（知的能力）、K（運動共応）は平均点以上。

担任教師のことば

●武くんのGATBの結果

GATBの結果では、Q（書記的知覚）、N（数理能力）、M（手腕の器用さ）の順に得点が高く、いずれも100点以上で高校生の平均点を上回っている。他にもG（知的能力）、K（運動共応）は平均点以上。

1位のQ（書記的知覚）は、印刷物の校正、帳票の記載やチェック、表の作成作業などを行う際に必要な能力であり、日常生活での注意力もこの能力に該当する。関連する職業分野には事務、機械・装置の運転看視、看護・保健医療、警備、保安などがある。

2位のN（数理能力）は、各種計算、集計作業、数量管理・分析、金銭管理などを行う際に必要となる能力である。関連する職業分野には経理・会計、工学・技術の開発応用、測定・分析などがある。

科目では数学との関連が高い。武くんの数学の成績がよいことは頷ける。

3位のM（手腕の器用さ）は、ハンドルやレバーを操作する作業、道具を巧みに扱う作業を行う際に必要な能力である。関連する職業分野には加工・組立、造形、理容・美容などがある。

体育の中でも、マラソンや水泳より球技が好きだというのは、Mが高いからかもしれない。

●興味のある職業との関連

中学時代、ケガで長期間通院した際に感じた医療関係者への有難さが印象に残っていて、医療系の仕事に興味があるという武くん。

保健医療系の仕事としては、Qに関連する職業例には「作業療法士」「薬剤師」などがあり、Nに関連する職業例には「臨床検査技師」「診療放射線技師」がある。

職業名を聞いて、第一印象はどうだろう。イメージだけではなく、実際はどのような作業、仕事で成り立つ職業なのか探ってみてはどうだろうか。

そろそろ文理を最終的に決めなければならないので、これらを大学の進路を決めるヒントとし、これらの職業の仕事内容や求められる能力についてさらに調べてみてはどうか。

（「職業研究」2019 No.2より）

※事例は、本人が特定できない程度に変更を加えています。

職場適応支援における GATBの活用と課題

―学習障害を診断された事例から―

カウンセリング
事例3
GATB×社会人

近畿大学　教職教育部
准教授
向後礼子

■はじめに

障害の有無にかかわらず、就労支援において個々人の職業適性を把握するための活動は重要である。なお、職業適性には「作業が速く正確に遂行できるか」だけでなく、「興味・関心があるか」「意欲があるか」「自信があるか」などさまざまな側面が含まれる。

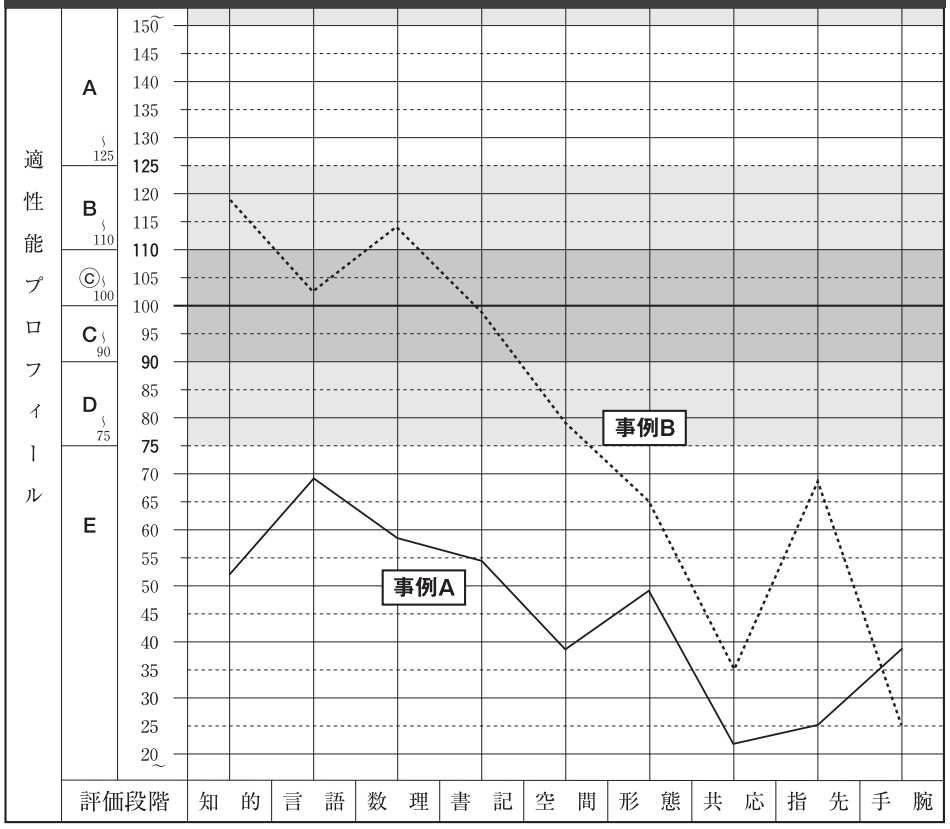
こうした点を踏まえたうえで、ここでは、職業適性のうち、作業遂行のスキル（能力的な側面）を検討する際に多く活用されている、厚生労働省編一般職業適性検査（以下、「GATB」）を用いて職場適応支援を行った事例を通して、支援の実際と利用の際の課題について検討する。

■事例から

通常の教育歴があり、卒業後〝一般扱い〟の就職をした2事例。両事例とも職場適応支援のためにGATBを利用した事例である。

なお、事例Aは、離転職の経験を経て、障害者雇用による職場適応を検討することとなったが、事例Bでは〝一般扱い〟の就労において配置転換による雇用継続を図ることとなった。

図1　事例A / 事例Bのプロフィール



（注）実際の評価票では 40 以下は表記されない。

事例A

高校卒業後、学校紹介により検品の仕事に就く。作業遂行が難しく、離職。その後、職業安定所の紹介で製造に関わる仕事等に就くが、数ヵ月で離職。学校在学中に学習障害の診断があったことから、職業相談を開始。学校時代にも体育や図画・工作などの課題で、うまくいかないという思いは抱えていたが、職業選択においては、学習障害の診断があることも、特性についても検討されていなかった。

事例B

大学卒業後、不器用さは認識していたものの〝やりたいこと〟を重視して希望の仕事に就く。しかし、手指を使う作業が多く、作業遂行の精度・速度共に十分ではなかった。また、徐々に対人関係面でもうまくいかないと感じることが多くなった。ただし、巧緻性を要求されない仕事であれば、〝できる〟可能性が高いことから、まずは配置転換の可能性が検討された。

なお、自らの特性について学習障害を疑い、卒業後に診断を得ていた。

両事例共に、学校在学中から不器用さに関する自覚はあったという。しかしながら、職業選択において、不器用さはもとより、その他の学習障害の特性が十分に考慮されたとは言い難い。

特に事例Aでは、学校紹介であったが、困難の現れ方についての検討が十分ではなかったと言えよう。確かに、在学中の活動において不器用さは数値化されにくい。そのため、他者との比較が難しいと考えられる。加えて、GATBの結果からは、作業指示の理解にも支援が必要であることが示唆された。

また、事例Bにおいて遂行可能な業務への配置転換が可能となったのは、配置可能な業務が存在していたことによっている。したがって、こうした業務再設計が困難な場合には、離転職も視野に入れた支援が必要となる。

※両事例とも、個人情報保護の観点から、本質を損なわない範囲で修正を加えた。

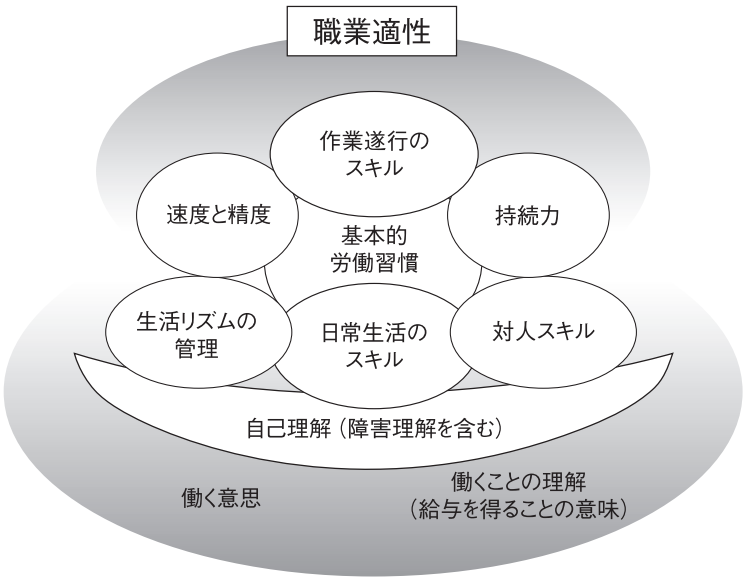
■職場適応支援におけるGATB
―就労準備性をめぐって―

今回の2事例に関して、特に事例Aに関しては、相談の中で作業遂行上の課題だけでなく「基本的労働習慣」「対人スキル」などの点でも課題があることが明らかとなった。GATBによる評価は、主に「作業遂行のスキル」「速度と精度」に関する部分の評価であり、職場適応支援の観点からは、**図2**に示す、より多面的な就労準備性をめぐる課題*について、検討がなされなければならない。

【引用文献】
＊向後礼子「発達障害のある人の就労をめぐる課題への取り組み―学校時代の課題との関連を考える―」『発達』129号、26～32頁、ミネルヴァ書房、2012

（「職業研究」2012夏季号より）

図2　就労準備性をめぐる課題



進路指導・職業指導用
厚生労働省編一般職業適性検査
GATB General Aptitude Test Battery
対象■中学・高校・高専・専門学校・短大・大学・職業訓練校・職業相談機関等

●検査用紙 …… 300円
●判定料
［ベーシックコース（1名分）］
PDF …… 360円
プリント …… 380円
［プラスコース（1名分）］
PDF …… 400円
プリント …… 420円
●手　引 ……1,210円
●Q&A集 …… 880円
●検査実施用指示音声ファイル … ダウンロード無料
（税込）

お問合わせ・お申込みは● 一般社団法人 雇用問題研究会 ●電話 03-5651-7071●FAX 03-5651-7077
●ホームページ https://www.koyoerc.or.jp/

商社の営業職志望から ＩＴ業界SEに方向転換

カウンセリング
事例４
VRT/GATB×大学

こころとキャリアのカウンセリングオフィス結（ゆう）
代表
山本公子

事例
大学商学部４回生　Ａさん（21歳・女性）

商社の営業を目指して

大学のキャリアセンターに来所したＡさんは、きちんと整った文字で相談票を記入。おだやかで控えめな印象だが、実は頑張り屋。最も厳しいゼミに所属し、学生が自主的に研究を進め、企業との共同研究で成果をあげた。また、プレゼンテーション大会ではチームをまとめ、部門賞をとった。部活は会計学関係でサブリーダーをしていた。

商社の営業の仕事に就きたい。お客様とお客様の間に立ち、相互に情報を提供することによって新しい価値や製品を生み出す仕事に面白みを感じたから。大きなお金を動かすことや仕事の達成感が数字で見えるのも魅力。

本当は総合職としてばりばり働きたいが、あまり体が丈夫ではないので無理な働き方はしたくないため、一般職も考えている。

自分の強みは課題を発見し、計画的に改善することができることだと思う。

個別指導の学習塾でアルバイトをしていて、小学生から高校生まで教え、新人講師の教育もしていた。塾生のモチベーションを上げるという課題があったときは、まず子どもたちにアンケートをとって要因を分析し、頑張る気持ちになれるよう、出席ポイントやギフト制度、周知の方法を改善するなど複数の提案をして、実際に出席率、塾生のやる気、利用者数などをアップさせる成果をあげた。

持ち駒がなくなってモチベーションが落ちる
――可能性を探るためＧＡＴＢを実施

十分に力のありそうなＡさんだが、選考が進んでいなかった。金融系には興味がなく、インテリアやファッションに興味があり、繊維関係にこだわっていた。繊維、生地・服地、紳士服まで、魅力があると思う商社を選んでは、営業職や総合職でエントリーした。書類は通っても、一次面接がなかなか通らない。業界を広げ、一般職にも応募したがうまくいかない。

エントリーシートの添削にも来室。話を聴いて、テーマをゼミ中心からアルバイトを入れたり、内容を整理して文字数を減らしたり、具体的エピソードを入れて自分らしさを表現するようにしてもらった。しかし、モチベーションが落ちている様子が見てとれたので、可能性を探るためにＧＡＴＢ（厚生労働省編一般職業適性検査）を実施する。

結果は全体に優れており、認知機能は数理以外の評価段階はＡで、とりわけ言語能力が高かった。知覚機能、手腕や指先の器用さを含む運動機能とも、普通からやや良い範囲だった。その結果、適性職業群の照合では、自然科学系の専門職、医師等だけが「Ｌ：基準を満たしていない」ほかは、すべての職業群に適性ありとなった。Ａさんは、幅広い職業に十分な可能性ありと出たことで、少し自信が持てたようで、活動範囲を広げたいと述べた。

ＩＴ業界のＳＥ職に出会う

食品業界で好きなブランドの関連会社の説明会に出たところ、ＳＥの募集だった。ＳＥに興味はなかったが、話を聞いていたらできるかもと思えた。「お客様の要望を聴いて形にする、課題を解決していくような仕事で、コミュニケーション能力が大事」と言われた。それは、自分がゼミ活動や塾講師の仕事でやっていることなので、できるのではないかと興味が湧いた。

夏に来たときは、「２社で内定がとれ、本命の会社は最終の結果待ち」と報告がある。

内定の１社はＳＥだった。ＩＴの知識は入社してから研修があるが、ＳＥは理系の人が多い。会社から「スキルがないのに文系を採るのは、バランスの良い人を求めているから。必要なのはコミュニケーション力。お客様の話を聴いて問題を見つけ、理系の人との間に立って、双方に伝えていく能力が求められている」と言われた。

その後、ＡさんはそのＩＴ企業に入社が決まる。

就職活動の振り返り

商社は企業としての魅力があり、仕事が面白いと思ったが、全く通らなかった。ＳＥに変更したら、内定がとれるようになった。

商社営業に興味を持ったのは、考えて情報を結びつけて、課題を解決していくところ、海外で仕事ができそうだし、勉強して向上できるということだった。商社のグループディスカッションでは、自分から発言して、積極的に動いたつもりだが、結果が出なかった。あとで思うと、

周りで商社に採用された人は、積極的に人に関わっており、自分とは違っていた。

■VRTのプロフィールから

A検査（興味）は強弱がはっきりして「A 芸術的」「E 企業的」「C 慣習的」「I 研究的」が強く、「R 現実的」「S 社会的」が弱かった。しかしC検査（自信）では、強いところは「C 慣習的」「I 研究的」「S 社会的」となった。

「S 社会的」は自信と興味の差が大きく、Aさんも「人間力に自信がある」という。自信の高さは、塾での教える経験、ゼミ経験の積み重ねなどに裏付けられているようである。

Aさんは「『S 社会的』と『P 対人志向』がこんなに低い、そういうところが商社が求める人材と違ったかな、私は自分から人に向かってどんどんいくほうではない」と自己分析をした。

Aさんは冷静に話をするタイプで、論理的、緻密であるが、感情を直接表に出すようなことはあまりないので、与える印象が薄くなるのかもしれない。

「P 対人志向」全体は低いが、下位尺度「人の役にたつ」は7点と非常に高かった。人に関心を持ち役立ちたいと思っているが、あまり自己表現せず、人と距離をとっているようだ。Aさんは、「私は社交的ではないので、親しい友人が少なく自分のエリアを守っている」と言う。

データを併せてみると、Aさんの「人の役にたつ」は、「S 社会的」社交的で親しく接する、奉仕する「役立ち方」よりは、「E 企業的」指導者として接する、説得するような「役立ち方」に近いようだ。「I 研究的」も高いので、人をよく観察し、分析し、解決方法を考え上手に指導できそうだ。それが対人スキルの自信の高さにつながっているようである。

興味では「A 芸術的」が最高で、繊維関係の業界を選んだことや、趣味が、映画鑑賞や料理、旅行で、書道も長年習っていたことと関連しているようだ。

自信が「C 慣習的」「I 研究的」「S 社会的」であったことについて、Aさんは、大学進学のとき、生活の心配がなければ日本史を学んで「学芸員」になりたかった、でも、それでは就職できないだろうと、勉強がしっかりできて、就職に困らない商学部を選んだと堅実な考えを述べた。

就職後については次のように回答しており、人生に対する考え方も堅実で安定を求めていることが現れている。

組織の中で専門性を持って長く働きたい。自分の望むライフスタイルは、安定して不安のない生活、文化的な生活、よい上司に恵まれること。望む生活を実現するために働きたい。私生活を犠牲にしてまで仕事をしたいとは思わない。

■Aさんの良さを見いだした人事担当

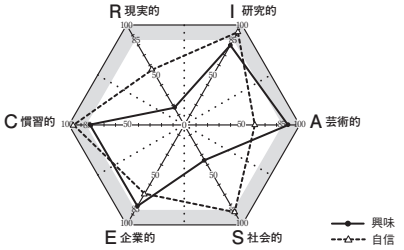
内定を得た会社では数回選考があり、毎回担当していた人事の女性がいた。実はその人がAさんを強く推してくれた。Aさんは控えめで淡々としているので、〝実はばりばり働きたい〟という熱意が伝わりにくい。数回会って、観察し、さりげない会話などから、Aさんの聡明さ、秘めた熱意や頑張りといった良さを見いだしたのであろう。Aさんと人事担当者は共通する特性があるかもしれない。

Aさんに、「SEで採用されたが、いずれはリーダーとなり、異動もありうる。Aさんは考える力、観察力、分析力、マネジメント力、成果をあげられる強みがある。人をサポートし、役に立ちたいと考えている。もし興味が持てるなら、将来、採用や研修を担当しマネジメントするような人事や研修、労務分野にも向いているかもしれない」と伝えると、Aさんは、「人事や労務などにも興味があります。いろいろと経験していきたい。まずはSEとして専門の勉強をして、働いていきたい」と明るく語った。

自信の強い「C 慣習的」「I 研究的」、そして「S 社会的」という特性や、強み、良さを活かして、「人の役に立ちたい」という思いを実現できそうな仕事に就くことになったAさん。今後、熱意と堅実な働き方で、粘り強く希望のキャリアを築いていってほしいと願っている。

（「職業研究」2016 No.1より）

VRT 結果プロフィール



VRT 基礎的志向性のプロフィール

基礎的志向性	標準得点
D 対情報志向	98
P 対人志向	30
T 対物志向	89

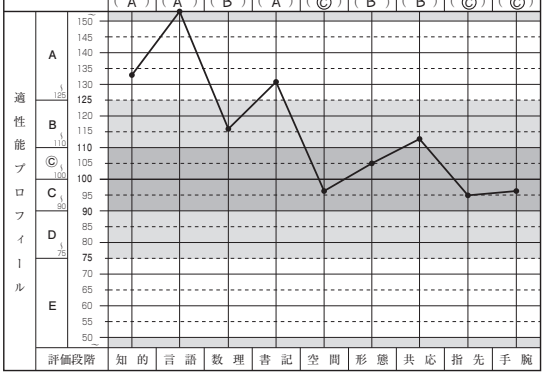
弱い ← 基礎的志向性 → 強い　パーセンタイル順位

VRT 基礎的志向性の下位尺度のプロフィール

基礎的志向性(DPT)		○の数	○の数だけ棒グラフを塗りつぶしましょう。	解説
D 対情報志向	D1 情報を集める	7		たくさんの情報を集めたいという気持ちが強いことを示す。
	D2 好奇心を満たす	8		世の中や社会のしくみに対して好奇心が旺盛で、知りたい気持ちが強いことを示す。
	D3 情報を活用する	6		集めた情報をきちんと整理し、順序立てて管理し、有効に活用したい気持ちが強いことを示す。
P 対人志向	P1 自分を表現する	2		人前できちんと意見を述べ、自己表現を行いたいという気持ちが強いことを示す。
	P2 みんなと行動する	4		一人で過ごすよりたくさんの人と一緒に行動したいという気持ちが強いことを示す。
	P3 人の役にたつ	7		人の気持ちに敏感で、他人の援助をしたいという気持ちが強いことを示す。
T 対物志向	T1 物をつくる	5		道具や機械を使うような物づくりを好む気持ちが強いことを示す。
	T2 自然に親しむ	7		自然の環境の中で動植物を観察したり、身体を動かすことを好む気持ちが強いことを示す。

GATB 適性能プロフィール

適性能得点	G	V	N	Q	S	P	K	F	M
	133	161	116	131	97	105	113	95	96
評価段階	A	A	B	A	C	Ⓒ	B	C	C
(加算評価段階)	+8 141 (A)	+8 169 (A)	+8 124 (B)	+8 139 (A)	+10 107 (Ⓒ)	+10 115 (B)	+10 123 (B)	+12 107 (Ⓒ)	+12 108 (Ⓒ)



※事例は、本人が特定できない程度に変更を加えています。

家電量販店に入社して2年、今の仕事は苦手で転職したい

―転職に向けた就職支援機関での適性検討―

カウンセリング事例5
VRT/GATB×社会人

編集部

事例
大学経済学部卒
家電量販店入社２年目
Kさん（男性・25歳）

今の仕事は不本意で就職した。
自分にとっては一番苦手なものとの認識が強く、転職を考えている。
その前に自分の適性について検討したい。

新卒時の就職活動について

新卒時の就職活動ではもともとメーカーを希望していた。今思えば深く考えていたわけではなく、会社のイメージとして代表的なのがメーカーだった、という感じ。活動中に周りがどんどん就職を決めていくのを見て焦ってしまい、成り行きで決めて今の家電量販店に入社した。

現在の仕事について

パソコン売り場で販売を担当。パソコンにはそれほど興味はない。お客さんからはさまざまな質問があって対応しきれないと思うこともしばしばで、毎日店に立つのを苦痛に感じている。先輩を見ていると、自分はつくづくお客さんを相手に臨機応変に対応することは苦手だと思う。

接客以外には、店頭での商品の陳列（ディスプレイ）などの仕事もあるが、最も苦手である。工夫しながら見る人にわかりやすく、きれいに並べるということができない。感覚的、創造的な仕事は向いてないと思う。

好きな仕事

マニュアルどおりに、じっくりと取り組める仕事のほうが好き。売上伝票を整理して集計する仕事などは苦にならない。早くしなくてはいけないという時間的制約があって急かされるのはイヤだが。

自分としては大学のゼミで勉強した経理・会計の知識を生かした経理事務の仕事が向いているのではないかと思う。当時は何となく面白そうだったから選び、簿記２級を取ったりしたが、そういう志向があったのかもしれない。今ひとつ確信がもてないので、転職する前に適性を客観的に確認しておきたい。

ＶＲＴの自分の結果を見て

決まったやり方に従って、手堅い活動をすることを好むという傾向は、自分の思っていたことと一致するので、納得でき、安心した。転職に向けて準備したい気持ちになってきた。

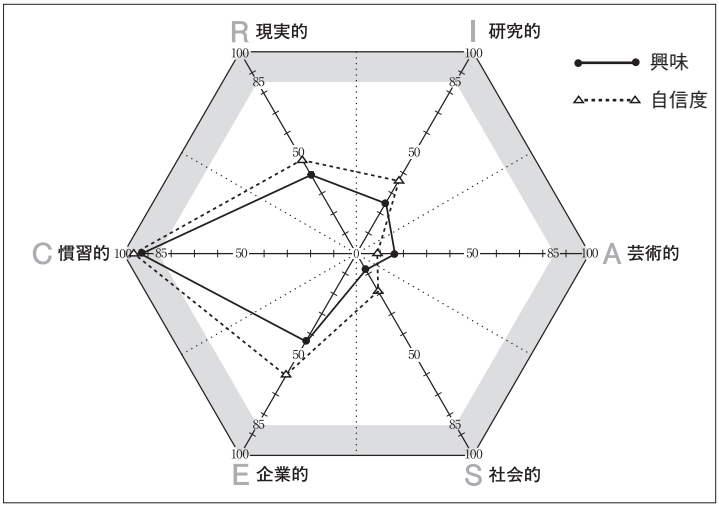
Ｃの領域にある仕事では、会計事務員、経理事務員、税理士、公認会計士などが気になった。

先日、インターネットで国税専門官という仕事があるのを見て、興味を引かれた。きちっと決まったことをしていく仕事で、自分に合っているのではないか。試験を受けて合格しなければならないが、そのためにこれから準備を始めて勉強することは、苦にならなそうな気がする。

今から勉強して国税専門官試験にすぐ

VRT　結果プロフィール

■興味（Ａ検査）と自信（Ｃ検査）の六角形

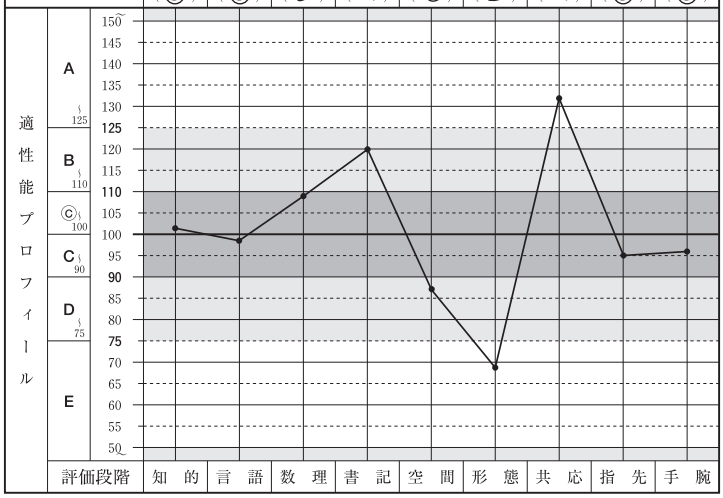


●Ｋさんの VRT の結果

興味領域でのＫさんの特徴は、Ｃ領域のみが90パーセンタイル以上と突出して高く、その他は非常に低いこと。ルールに従って行うような定型的な仕事に興味が高いということで、対人的な仕事（Ｓ領域）や創造的、感覚的な能力や関心を求められる仕事（Ａ領域）にはあまり興味はないようである。一方では、組織で働き、企画を考えたりすること（Ｅ領域）には興味も自信も一定程度あるという結果であった。

GATB　結果プロフィール

適性能得点	G	V	N	Q	S	P	K	F	M
	101	98	109	120	87	69	132	95	96
評価段階	Ⓒ	C	Ⓒ	B	D	E	A	C	C
（加算評価段階）	+8 109（Ⓒ）	+8 106（Ⓒ）	+8 117（B）	+8 128（A）	+10 97（C）	+10 79（D）	+10 142（A）	+12 107（Ⓒ）	+12 108（Ⓒ）
評価段階	知的	言語	数理	書記	空間	形態	共応	指先	手腕



●KさんのGATBの結果

GATBの結果では、Kさんが希望する「(39)経理・会計の仕事」の基準（G：90、N：90、Q：100）を満たしていた。書記的知覚（Q）が比較的高い特徴と、VRTのC領域への関心の強さを併せて考えると、経理事務の職業は向いているといえる。公認会計士や税理士は「(21)法務、財務の仕事」となり、所要適性能基準も高くなり（G：125、V：125、N：100）、試験もあるので、準備が必要である。また、プロフィールではわからないが、各検査の回答を個別に見てみると、間違い（誤答）が少なく、丁寧な取り組みをしていることから、几帳面で正確な仕事ぶりが察せられた。

合格するとは思えないので、まずは、とりあえず別の道で就職することも考えたい。企業規模にこだわらずに経理事務の求人を探してみたり、会計事務所などに入って、資格の勉強をするというのもいいかもしれない。

本人は、国税専門官、会計士などを目指すという方向での計画をより具体的にするために、「能力面も確認しておきたい」との希望を述べた。次回、GATB（厚生労働省編一般職業適性検査）を行うこととなった。

■GATBの自分の結果を見て

やはり公認会計士などは難しいかもしれないが、経理の仕事は合うと思うので、よかったと思った。勇気づけられた。求職活動をしていく励みになりそう。

Kさんはやや心理検査に期待をしすぎている傾向が見られた。「GATBで測定できる範囲では適性がある」ということで、これで何でもわかるわけではなく、いろいろな面から職業適性をとらえていく必要もあることを伝える。Kさんの場合は、VRTでの職業興味も合致しており、経理の仕事への意欲もあるので、方向性としてはよいと思われる。

後で、「転職するとなるとちょっと不安なので、客観的なデータの裏づけが欲しかったのかもしれません」と述べた。

プロフィールや適性職業群の基準を満たしているか否か以外にも、職業への意欲や興味、価値観や環境への適応力などさまざまな要素があるので、希望する仕事と関連づけて多角的に考えてみることを促す。

●フィードバックのヒント

こころとキャリアのカウンセリングオフィス結（ゆう）　代表
山本公子

相談支援にアセスメントを取り入れることで、その人の全体像や直感的な印象を生かしつつ、客観性を高め、相談の信頼性を増すことが可能になる。結果が思いがけないものであったとしても、一つずつの回答の積み重ねには、そのときの本人の一面が表れている。

どういう主訴や目的をもって、どんな気持ちで相談に来たか、問題に回答しながら、考えていたこと、結果をどう思ったかなど、心の内は面談で話し合い、尋ねていく。

検査の結果には、志向性や能力特徴が表れている。本人自身も結果説明を受けて、改めて自分のことを考え、気づきがあったようである。

（「職業研究」2015秋季号より）

※事例は、本人が特定できない程度に変更を加えています。

キャリア・インサイトの活用
―大学等における実践例―

カウンセリング
事例6
キャリア・インサイト
×大学

こころとキャリアのカウンセリングオフィス結（ゆう）
代表
山本公子

■はじめに

「職業適性診断システム　キャリア・インサイト」は、若年層（EC）から中高年齢層（MC）まで幅広く利用できる総合的なガイダンス・システムとして、相談に活用しやすいツールである。筆者の場合、主な活用場面は、①大学における学生や大学院生を対象としたキャリア・コンサルティング、②大学院の臨床心理科目で、アセスメント・ツールの一つとして導入、③カウンセリングルームへの来談者（大半が職業経験のある成人）のキャリア・コンサルティングである。ここでは①②での活用方法、事例を紹介する。

■大学におけるキャリア・コンサルティングでの活用

学生（大学院生、既卒生を含む）のキャリア相談（個別相談）は予約制で、就職や進学といった進路や生き方まで幅広く対応している。就職活動に関わるものが大半であり、適性理解に関わるもの、エントリーシート、自己PR、面接対策等就職活動の進め方、就活の悩みなど、メンタル面の問題、大学院進学等がある。

〝自己PRの書き方〟といった就活ノウハウを求めている場合でも、自身の職業に対する考え方、適性や価値観の理解といった基本を確認し、できるだけ自己理解を深めてもらう。また、学生は職業経験が少なく、将来の可能性を探ることになるので、職業適性の把握はウエートが大きい。

相談では必要に応じて、能力、職業興味、性格、価値観等、各種の適性検査やチェックリストを利用している。ペーパーテストは相談枠約50分の中では実施・採点・整理に時間がとられる。また、インターネットを使うツールは相談個室内で利用できない。

■個別相談での利用方法

キャリア・インサイトを組み込んだノートパソコンは、相談個室内に持ち込んで簡単に実施できる。実施後即結果が得られるので、一緒に画面を見ながら説明をし、感想を聴きながら、じっくり相談を進めることができる。

相談時間内では、「適性診断コーナー」を利用することが多い。15分あれば、適性評価（能力・興味・価値観・行動特性）を一つワンポイントで行ってアドバイスできる。

約30分あれば、あまり悩まずに答えられる学生であれば「能力の評価」「興味の評価」「総合評価」まで行い、フィードバックすることができる（時間のかかる学生であれば、無理せず自分のペースでしてもらうか、ペーパーテストを持ち帰り、じっくり取り組んでもらう。そもそも検査より傾聴を優先することもある）。

結果プロフィールは視覚化され、コメントもあるので、おおよその方向性がわかりやすい。学生の納得感が高まりやすく、相談後には「方向性が絞れた」「自信につながった」「新しい面にも目を向けたい」といった肯定的な感想が多い。

示された職業例の内容を知らない場合も、職業名をクリックすれば、コンパクトな職業情報が得られ、併せて関連する興味領域と能力の特徴、関連する資格情報も得られるのは便利である。学生が知らなかった職業名であっても、自分の興味パターンに合えば「知らなかったけど、それも考えてみよう」と視野が広がることがある。

事例

文系学部の4回生女子。「昔から本が好きで文章を書くことに興味がある」と出版・広告関係でエントリー。しかし就職活動で出版社の人に直接話を聞いたことで変わっていく。

「漠然と思い描いていた、本好きなのとは違う。事務的な作業が多く、向いていない。他人のスケジュール管理や指示はできそうにない。また、編集の仕事は直接読者に喜ばれるわけではないが、直接喜ばれることをしたい」

そうして仕事を一つひとつ理解し、現実に落とし込めた。それからは、「人

と接する、自分に興味がある、手を使う」ことで、自然派化粧品、食品（添加物のない）、体にいいもの、エステなどリラックスできるもの、人材会社等に希望を変更していった。

キャリア・インサイトECは適性や方向性の確認として、能力、興味、価値観、行動特性、総合評価まで、2回に分けて行った（結果例は、**図1、2**）。結果ははっきりした傾向が見られ、クライエントの目指す方向性と合っていた。

能力の評価（**図1**）は、ボランティア&サポートが1位で、職業例には美容部員、エステティシャン等がある。

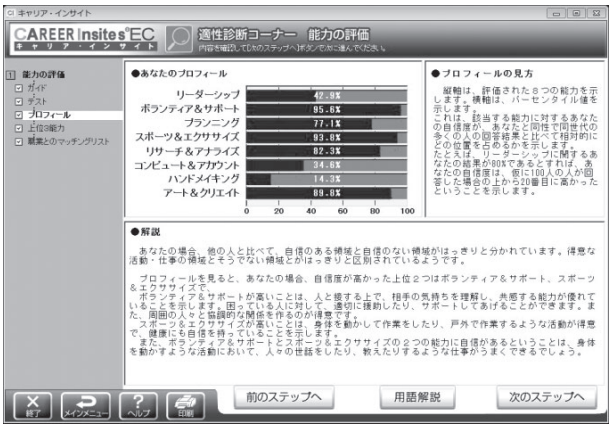


図1

職業興味の評価（**図2**）は、S社会的、I研究的、A芸術的の順になり、C慣習的は最下位で、事務的作業を好まないことが改めて示された。

職業マッチングは、1位と3位の領域で美容部員、エステティシャン、絵本作家が、2位と3位の領域で雑誌編集者、作家、デザイナー等の職業が示された。なお、1位S社会的と4位E企業的の領域の職業例に「キャリア・カウンセラー」等がある。

基礎的志向性のプロフィール（詳細）では、「人の役に立つ」が満点であり、反面「自分を表現する」が非常に低く、「人に指示するのは苦手、ノーが言えない」とのこと。また、行動特性では「個人プレー、改革、組織人、リーダー、スペシャリスト、負けず嫌い」の特徴が示された。

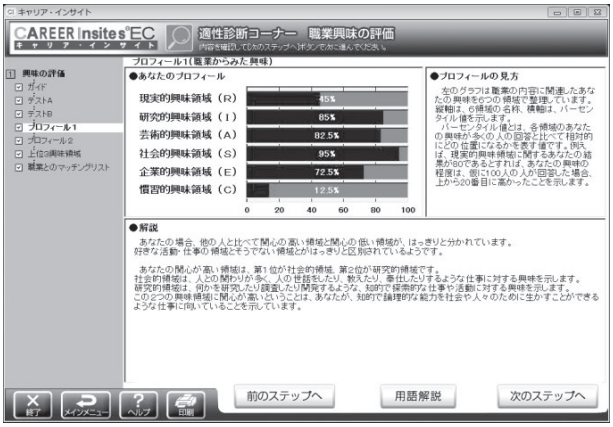


図2

彼女の感想は次のようだった。

「興味と自信が客観的にわかった。エントリーしている人材分野や化粧品など、この方面でよいとわかった。価値観や行動特性では、自由がよいことや、多くのことをするよりも一つのことをやりたいと思った。落ち着いてできること、ゆっくり、きっちり向き合う特徴があると前からわかっていたが、当時は仕事と結びつけてなかった。就活をしていて、自分の揺るがないところ、本当の性格、自分にとって大切なものは変わらないと感じることができた」

フィードバックでは一緒に結果を見ながら話し合って、よいところを引き出すことや、その人ならではのストーリーを将来に向かって作り上げられるよう支援することを心がけた。彼女が自己理解を深め、目指す方向に自信を高め、就活を頑張ろうと思えたことを確認し、その回の相談を終えた。

専門職向け講義での活用

臨床心理各論（ライフキャリアの支援）の講義において、キャリア・インサイトの学習を取り入れている。キャリア・カウンセリング用のツールは初めてという人が多いが、キャリア・インサイトは前もっての知識なしで直感的に扱えるので、まず体験してもらう。比較的短時間で、職業適性を調べ、キャリアプランを考える一連のキャリア・コンサルティングプロセスを体感することができる。

大学から直接進学した人と、社会人経験を経て入学した人がいるので、ECとMCを比べることができた。了解を得て、結果プロフィールを見せて、話し合った。プロフィールは視覚化され、特徴がわかりやすく比較しやすいので、このようなグループワークにも適している。

心理職やカウンセラー希望ではあるが、働く場の希望は、産業領域、若者キャリア支援、子ども対象と異なっている。

結果には各人それぞれの興味、価値観、職業や人生経験が反映され、本人の気づかない面や、ふだんの印象と違う面も現れた。自分の特性をはっきりと認識し、職業と結びつけて考える機会はあまりないので、客観的な結果を踏まえて、将来どんな場でどのように働きたいか、方向性や将来の可能性を考えてもらう機会になった。

おわりに

以上、キャリア・インサイトの活用の一部を紹介した。使い方やワークを工夫して相談への効果を高めることができるのではないかと考えている。簡便でありながら、意義深い使い方ができる。皆さんも気軽に試して、魅力ある使い方を発見していただきたい。

（「職業研究」2014夏季号より）

※事例は、本人が特定できない程度に変更を加えています。

社会人に受けていただきました

インタビュー VRT×料理人

料理人

「旬香みつや」店主

小長光史也（こながみつ）さん（41歳）

高校の調理科を卒業後、数店で日本料理を修業。ノルウェーとチェコで公邸料理人を経験。帰国後の2008年に「旬香みつや」を開店。食材は国産にこだわり、勝沼ワインとも相性がよい和食が堪能できる。

母親が料理好きで、小長光さんは小学生の頃から料理に興味があった。パスタや麻婆豆腐などを作ると、その出来が家族に好評だったという。中学時には将来は料理の仕事に携わりたいと思い、高校は調理科に進学する。卒業後に銀座の割烹料理屋に就職、その後30歳までに5店ほどで修業を積む。そして30歳の時、夢だった海外での仕事のチャンスをつかみ、ノルウェー、チェコの日本大使館での公邸料理人を担当。7年ほど赴任する中で「もっとこっちにいたい」との気持ちもあったが、ちょうどその頃子どもが生まれたこともあって「自分の店をもちたいという目標を実現させるには、今がよいのではないか」との思いも募り、帰国。2008年に現在の店をオープン。旬の素材を活かした和食の店として、食通の常連たちの舌を楽しませている。

週に2～3回は朝6時に家を出て築地へ仕入れに行き、戻るとすぐに仕込みに入る。水～土曜はランチもやっていて夜も10時半まで営業するので、睡眠時間が短くなりがちだというが、小長光さんは、「自分が供する料理とお酒で、お客様にほっとしていただく。その時間を楽しんでいただければ何より嬉しいです。この仕事は人に『いい時間』を提供することではないかと思います」という。

逆に厳しい点としては、「自分がしっかりしていないといけないので、健康など自己管理には気をつけなければなりません。また、最近は環境の変化の影響なのか魚や野菜など仕入れられる食材の幅も以前より狭まってきたような気がします。今後が心配ですね」。

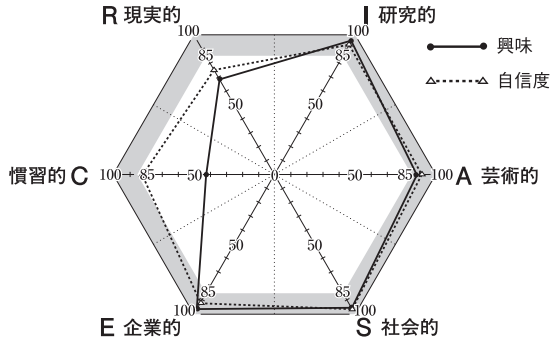
お客さんへの対応にも常に心を配る。「アレルギーがあればその素材を避けるのはもちろん、何度も足を運んでくださる方には前回と違った献立を入れてコースをアレンジします」

料理人を目指す若い人も多いが、「例えば自分の店をもつという目標を設定すれば、挫けそうになってもそこに向かって頑張ることができるのではないかと思います。誰かが何かをやってくれるわけでもないし、自分でしっかりしないと目標には近づけない。自分次第という部分が大きいですが、やればやっただけ得ることができるのではないでしょうか」。

VRTの結果を見ると、研究的、芸術的、社会的、企業的の各職業領域にかなり強い興味が表れている。それは、自分だけで店の経営を担うためには、仕入れ、料理の創作から、お客さんへの応対や経理的な管理まで、幅広い範囲の要素が求められることを示しているようだ。

（「職業研究」2010秋季号より）

興味（A検査）と自信（C検査）の六角形



基礎的志向性のプロフィール

基礎的志向性	標準得点	弱い←基礎的志向性→強い（パーセンタイル順位）
D 対情報志向	97	
P 対人志向	52	
T 対物志向	37	

小長光さんの職業レディネス判定

● **興味が強い職業領域**
1位：I 研究的職業領域
1位：E 企業的職業領域
3位：S 社会的職業領域

● **自信が強い職業領域**
1位：S 社会的職業領域
2位：I 研究的職業領域
3位：E 企業的職業領域・A 芸術的職業領域

興味が特に強いのは、Iの研究的職業領域（研究や考える仕事）とEの企業的職業領域（新しい企画を考えたり、組織を動かすような仕事）、Sの社会的職業領域（人に接したり、奉仕的な仕事）の3領域である。これらの興味・関心は「自分の店をもつ」という働き方の中に活かされている。

自信については、全体的に高い傾向にある。店に関わるすべての仕事に一人で対応される中で、興味の有無に関係なく、自信が培われている。基礎的志向性は、D（対情報志向）、P（対人志向）、T（対物志向）の順に興味の傾向が強く、中でも特に好奇心の強さと人の役に立ちたいという気持ちが強く表れている。

社会人に受けていただきました

インタビュー GATB ×コピーライター

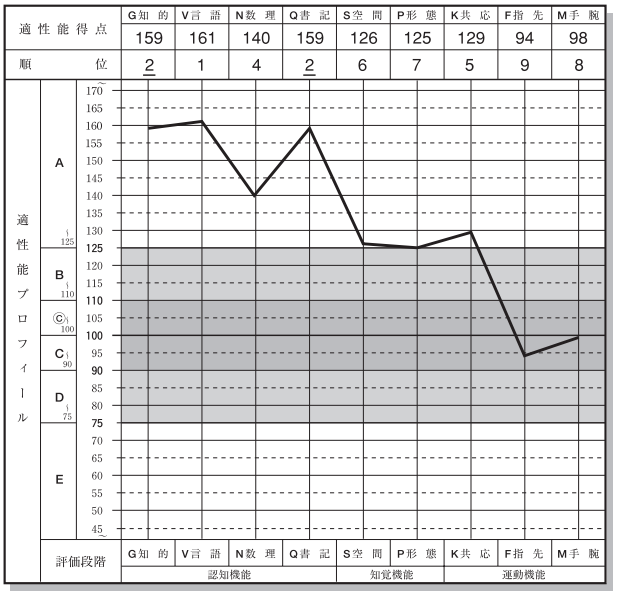
コピーライター

（株）プランダム

丸山智子さん（28歳）

大学の法学部政治学科を卒業後、出版社での編集業務を約1年経験。不動産広告制作会社に移り、アシスタントを経てコピーライターに。3年勤務の後、2010年3月より現在の会社にコピーライターとして勤務。

適性能得点と評価



丸山さんの職業適性判定

● **得点が高く出ている適性能**

1位：V 言語能力
2位：G 知的能力／Q 書記的知覚
4位：N 数理能力

● **適性能が活かせると思われる職業例**

VGQ：新聞記者、コピーライター、インストラクター、教員 等
VGN：マーケティングリサーチャー、イベントプランナー、人文科学系研究者 等

コピーライターの仕事に必要とされる、言語的な理解力や言語を使いこなす「言語能力」、新しいアイディアを生み出すのに必要な「知的能力」が高く、「文字や数字の理解力が特に優れている」という特徴が見られる。仕事を通して、それらの能力にますます磨きがかかると思われ、また「数理能力」も高いため、将来的には企画等、職域を広げていける可能性も秘めている。

大学時代、学園祭の実行委員を務めた丸山さんは、宣伝活動などに携わるうち、言葉によって人に楽しさを伝えることの魅力を知る。コピーライターとして働きたいと就職活動に取り組んだが、就職難の買い手市場の年でもあり、ほとんど全滅。

「卒業後5月になってやっとある出版社に入りました」

編集プロダクション業務も行っていたその会社では、編集を中心に取材や原稿執筆などの仕事をする。多少近い職種かと思って入社したが、丸山さんのやりたいコピーライターの仕事とは違っていた。1年後、やはり希望の職種に就きたい気持ちが募り、不動産関係専門の広告制作会社にアルバイトとして入り、1年半のアシスタントの後コピーライターとなる。そして経験を積む中で、他業界のライティングへの意欲も高まっていたところに、会社事情も重なり退職。

そういった中でも丸山さんは自己研鑽を続けていた。

「コピーライターの講座などには通っていました」

そして2010年3月、広告代理店である㈱プランダムに入社。コピーライティング、企画づくり等にあたっている。

厚生労働省編一般職業適性検査（GATB）の結果は、全体的に得点が高く、特に知的能力、言語能力、書記的知覚に優れ、コピーライターの所要基準点を完全に満たしていた。

「今まで好きだから、というだけでこの分野の仕事に関わってきましたが、能力適性の面でも裏づけをもらったような気がしてよかったです」

昔から文章を書くことが好きではあったが、こういった形で客観的な指標を得ることはあまりなかったという。

「私自身、社会人として5年ほど経験してきて思うのですが、キツイ仕事でも、好きなことなら頑張れるのではないでしょうか。また、これまでのすべての経験は何らかの形で現在につながっていて、無駄なものはなかったと思いますね」

小さい頃は手製の壁新聞を自作したり、最近ではブログに書いた趣味の演劇評が知人の目に留まり、寄稿を依頼されたりしているという丸山さんは、言葉を推敲して文章を書くことで人に伝えるという仕事が根っからお好きなようにお見受けした。

（「職業研究」2010春季号より）

大学生と職業興味

―職業レディネス・テスト（VRT）を活用した実践事例―

実践事例
VRT×大学授業

熊本学園大学
講師
大山佳三

■はじめに

本稿では、平成16年に看護学科2年生を対象に実施した職業レディネス・テスト（以下VRT）の結果を振り返り、その中から見えてきたことについて述べます。

■看護学科でのVRT実施

⑴ VRT実施のきっかけ

筆者は、非常勤で看護学科2年次に開講されている社会科学系一般教養科目を担当しています。その科目の時間を使い、VRTを実施しました。当初の講義予定には入れていなかったのですが、履修者との雑談の中で、「看護師に向いているのかどうか、不安になることがある」との声が聞かれたため、VRTの実施をクラスに提案してみました。

⑵ なぜVRTなのか

クラスに提案する前に、何人かに聞いてみたところ、はっきりとした不安感を抱いている人はごくわずかだと推測できました。しかし、何とも言えない漠然とした不安を多くの人がもっているように感じられました。

看護師に向いているかどうか、つまり、看護師としての適性には、能力や性格、興味関心のほかに、いろいろな要素があります。能力は学科のカリキュラムで判断できます。筆者が講義の範囲内で行うことができる不安の解消策は、興味検査の実施でした。「VPI職業興味検査」は設問が職業名であるため、看護学科の学生には回答しづらいと思い、同じ考え方に基づき作成されているVRTを実施することにしました。

⑶ VRTの概要

VRTは、「『自己理解を通じて職業探索へ、職業探索を通じて自己理解へ』を理念として、中学生・高校生をはじめとする青少年の進路（職業）発達を促すことを目的とした用具」です（『新版職業レディネス・テスト手引』より引用）。

ホランド理論に基づき、職業興味と職務遂行の自信度、基礎的志向性を測る検査です。自己採点が可能で、結果はプロフィールとしてグラフに描くようになっていることも特筆すべきことです。

質問は職業・仕事の内容を簡潔に記述した一文で、「部品を組み立てて機械をつくる」などのように、平易な表現となっています。このような質問に対し、「やりたい」「どちらでもない」「やりたくない」の3択で回答することにより職業興味を測定し、また、「自信がある」「どちらともいえない」「自信がない」の3択で回答することにより、職務遂行の自信度を測定します。

ホランド理論では、職業や仕事と職業の視点で捉えた個人の個性を職業領域の組み合わせで表します。『Dictionary of Holland Occupational Codes』は、アメリカにおける職業について、その特徴をこの3領域で表した辞典です。

六つの職業領域とは、次のものです。

①現実的職業領域（R…Realistic）
機械や物体を対象とする具体的で実際的な仕事や活動の領域

②研究的職業領域（I…Investigative）
研究や調査のような研究的、探索的な仕事や活動の領域

③芸術的職業領域（A…Artistic）
音楽、美術、文学などを対象とするような仕事や活動の領域

④社会的職業領域（S…Social）
人と接したり、人に奉仕したりする仕事や活動の領域

⑤企業的職業領域（E…Enterprising）
企画・立案したり、組織の運営や経営などの仕事や活動の領域

⑥慣習的職業領域（C…Conventional）
定まった方式や規則、習慣を重視したり、それに従って行うような仕事や活動の領域

（ ）内のアルファベットは、それぞれの領域を英語で表した際の頭文字です。

VRTを受けた人の特性や職業をこ

れらの職業領域の組み合わせで表すと、個性と職業を、いわば共通の言語で語ることができるようになります。つまり、自分の個性がRIAで表され、ある職業も同じくRIAで表されるとしましょう。この場合、人と職業は同じまたは非常に近いと考えることができます。しかし、ある職業がSECで表される場合には、人と職業の間には似ている部分が少ないと考えることができます。

これは仮説例ですが、ホランドコードを使うと「自己理解を通じて職業探索へ、職業探索を通じて自己理解へ」という、双方向で個性と職業を考えることができます。あくまでも参考程度ですが、先に紹介した辞典では、Nurse、General Duty（看護師）がSIA、Nurse Assistant（看護助手）がSERとなっています。

⑷ VRT実施の手順

VRTについて前述のような説明を行い、看護実習後に成績には関係ない短いレポートを提出することを条件として、強制ではなく希望者だけが受けることとしました。レポートの内容は、実習したことについてホランドコードを使って考えてみることと、VRTの結果についての感想としました。

看護実習2週間前の講義1コマ（90分）を使ってVRTを実施し、実習後の講義1コマでレポート作成と相談会を行いました。

VRTは『新版職業レディネス・テスト手引』に従いながら、次のような手順で実施しました。

①VRTの目的・受検に際しての注意事項の説明
②回答
③自分の結果（上位3領域）を予想
④自己採点とグラフ作成
⑤プロフィールの見方の解説と質疑応答
⑥結果と予想の比較

①では、看護の仕事にこだわることなく回答することを強調しました。

②では、問題文を読み上げる方法を採ったため、回答終了のバラツキはありませんでした。

③は『手引』にはなく、不安解消の対策として加えた項目です。この際、六つの職業領域について再度説明を行っています。

⑥は看護実習のグループで集まり、話し合ってもらいました。

■看護学科でのVRT実施

⑴ 予想と結果のズレについて

受検者72名について、上位三つの職業領域を集計し、その割合を計算したところ、76・4％の人でS（社会的職業領域）が上位三つの中に入っていることが示されています。以下、割合の高い順に、R（現実的職業領域）が66・7％、I（研究的職業領域）が56・9％、E（企業的職業領域）が38・9％、A（芸術的職業領域）が34・7％、C（慣習的職業領域）が29・2％となっています（**表1**）。

一方、上位3位までに入ると予想された職業領域については、回答の割合が高いものの順に、Sが89・5％、Cが57・9％、Aが49・1％、Rが40・4％、Eが31・6％、Iが22・8％でした（**表2**）。

結果と予想で人数が異なるのは、レポートに予想を明記しなかった人が15名いたからです。

順位にかかわらず3位までに入れば予想と結果は同じとして、予想を明記した57名を、予想と結果でともに3位までに入った職業領域の個数で、次のように分類してみました。（ ）内は受検者72名に対する割合です。

①3個……11名（15・3％）
②2個……5名（48・6％）
③1個……10名（13・4％）
④0個……1名（1・3％）

①の11名は、レポートで不安やそれに類似する言葉・表現は使っていませんでした。

②は3位までに入ると予想した領域の一つだけが、結果では4位以下となったケースです。予想から外れた職業領域と、結果で新たに3位までに入ったそれの得点の間には、有意な差は見られませんでした。このことから、②に分類された人には、不安や不安のようなものはないと推測していましたが、2件のレポートで不安をもっていたことを示唆するような表現がみられました。「…」は中略、カッコ内は筆者の要約や加筆事項です。

表1　上位3位までの割合：結果（%、N=72）

	R	I	A	S	E	C
1位	36.1	23.6	6.9	30.6	8.3	1.4
2位	20.8	22.2	12.5	25.0	11.1	6.9
3位	9.7	11.1	15.3	20.8	19.4	20.8
合計	66.7	56.9	34.7	76.4	38.9	29.2

表2　上位3位までの割合：予想（%、N=57）

	R	I	A	S	E	C
1位	10.5	10.5	15.8	52.6	0.0	10.5
2位	10.5	7.0	14.0	24.6	19.3	21.1
3位	19.3	5.3	19.3	12.3	12.3	26.3
合計	40.4	22.8	49.1	89.5	31.6	57.9

「予想と結果の第1位が同じ（S領域）だったことにほっとしている」

「予想と結果を比べてみて、私自身どういうものに興味をもっているのか、どのような職業が向いているのか意外とわかっているのだということがわかった。…これはとてもうれしい…。たまに自分は向いていないかもしれな

いと考える時もあったが、自信をもって進むことができるような気がする」

③は、1領域が予想・結果ともに、4領域が予想または結果で3位までに入ったケースです。この4領域の得点は、高いレベルか普通レベルの範囲内に収まっていました。2人が、自信のないことや苦手なことは興味がないと考えていた、もっとがんばって苦手なことをなくそうと思う、とレポートしていました。

予想と結果が全く異なるケース④に該当する1名は、予想がASC、結果がRIEでした。このことについてレポートで「大学に入る前は、ただ看護師になりたいという夢をもっていただけだったが、実際に今こうして、看護師になるために技術的な面をさまざま学習していることにより、このような結果が出た」と分析しています。また、設問45「患者の体温や血圧を測ったり、入院患者の世話をする」には、「やりたい」と回答しています。

⑵ 設問45への回答とS領域（社会的職業領域）得点のレベル

設問45は「患者の体温や血圧を測ったり、入院患者の世話をする」で、看護師の仕事を記述しています。

社会的職業領域は、『新版職業レディネス・テスト手引』で次のように解説されているように、看護の仕事と密接な関係をもっています。

> 人と接したり、人に奉仕したりする仕事や活動の領域。
> この得点が高い人は、次のような傾向を示す可能性が高い。
> ＊人に教えたり、人を援助したりすることに強い関心をもつ。
> ＊人と一緒に活動することを好む。
> ＊人の気持ちを理解したり、いろいろな人と親しくなる力に恵まれている。
> この職業領域には、例えば、次のような職業が含まれる。
> ＊学校教育・社会教育関係の職業、社会福祉の職業、医療・保健関係の職業、各種の対人サービスの職業、販売関係の職業

そこで、設問45への回答種別ごとにS領域の得点レベル（高い、普通、低い）で分類して、レポートから彼らの考えたことを探ってみます（72名をS領域の得点レベルで分けると、「高い」が44名、「普通」が26名、「低い」が2名でした）。

設問45への回答は、「どちらともいえない」が12名、「やりたくない」が1名でした。他の58名は「やりたい」と回答し、S領域の得点は高いレベル、または普通レベルでした。

「やりたくない」と回答した1名は、S領域の得点は普通レベルで、「そもそも私は看護師になる気はない」とレポートで明言しています。

「どちらでもない」と回答した12名のS領域の得点レベルは、2名が「低い」、7名が「普通」、3名が「高い」でした。

以下は、S領域の得点レベルが「低い」であった2人のレポートから抜粋です。

> （職業領域はIACの順で高く、情報に対する志向性は非常に高い。）
> 人と接すること、皆でワイワイ何かをするよりも、黙々と何かに打ち込んでするほうを普段から好んでいる。…A領域は最近興味をもちはじめて、バイトの関係で…影響している。
> 興味をもったものとして、自分で集めた情報をもとに症状を分析していくという作業である。例えば患者さんが普段より口数が少ないと感じれば、脱水の可能性または精神的な負担がかかっているなど考えていくことである。
> 基礎的志向性の分野で対情報がダントツに得点があったので、データをもとに考えをまとめたり、整理したりする作業を好む傾向にあると思った。

> （職業領域はIRAの順で高く、基礎的志向性はすべて普通レベルで、突出するものはない。）
> 患者さんの情報の分析や解釈をすることは好きで、昔の将来の夢は画家になることだった…計算が苦手なこと、最近本当に看護師になりたいのか、看護師に向いているのか悩んでいた…（IAが高く、SCが低かったことは）納得した。
> カルテからの情報収集…ケアに対する患者さんの反応などから、患者さんの行動・言動の意味を深く追求していくこと、情報を関連づけて看護上の問題を抽出すること、…必要なケアを導き出し看護計画を立てることが、とてもたいへんだったがおもしろいと思った。
> ケアを拒否される患者さん…に対し実習初日からどうしたら安楽な入院生活が送れるか、少しでも心を開いてくれるか考えていた。…ケアをする時は、患者さんに負担がかからないように…羞恥心を与えないように…いつも気をつけていた。…ケアへの拒否もなくなり少しずつ心を開いてくれるようになった。その時のうれしかった気持ちや心が温まるような気持ちから、私は人と接するのが好きということを実感した。…この発見のおかげで…看護師に向いているかということよりも、目の前にいる患者さんに対して「看護をしたい、安全・安楽な生活が送れるようにしてあげたい」という気持ちが大切だと思った。そして看護師になりたいと思った。

次に、S領域の得点レベルが「普通」であった7名のうち5名は、6領域の得点がすべて普通レベルです。これは興味が分化していないと解釈できます。レポートからの抜粋です。

看護の仕事で興味のあるものにもないものにも結果で1位になったI領域が出てきた。（I領域の得点は普通レベルなので、興味分化が起きていないと考えられる。プロフィールのグラフで）山と谷がはっきりしていなかったので参考になるのか少し疑問。

（C領域の得点は低いが、他5領域の得点は全て普通レベルにあるので）自分が知らない自分がまだ隠れているのでしょう。

（S領域の得点がやや低めの普通レベルだったが）看護にとって大切な人と接したり、人に奉仕したりする仕事が上位項目に入っていたことや、実際に実習に行って、そのような項目の仕事に興味をもてたことで、自分は看護師に向いていると思った。

最後に、S領域の得点レベルが「高い」であった3名のレポートからの抜粋です。

EとSが高いので、チーム医療に自分の力を発揮できるかもしれない。

興味がもてたものは、患者さんとのコミュニケーション、清潔活動への援助、散歩で、逆に興味があまりもてなかったものは食事介助、看護師への報告、実習記録を書くことであった。…患者さんと話をしたりしながら食事介助を行えば、興味がもてていたかもしれない。…ホランドコードで強く興味を示した領域が、実習中にも興味をもっている…興味がもてなかった分野でも、視点を変えてみれば、興味がもてる可能性があるということがわかった。

興味をもった業務は、患者さんとのコミュニケーションの部分だった。欲しかった情報を患者さんの口から実際に聞くことができた時は、やはり嬉しかった。…興味がないがやってみようという思いをもって、いろいろなものに挑戦していきたい。

（S領域が1位になった結果を見て）自分では人と接することはあまり得意ではないと思っていましたが、…思い込みすぎなところがあり、…看護の仕事は、実は向いているかもしれないという気持ちをもちました。

VRTの結果とレポートから見えてくること

レポートを読んだ率直な感想は、「たくましい」「頼もしい」でした。前に進むための、看護の仕事へ向かっての積極的な理由づけをしている人がほとんどでした。また、その中で視野を広げようと努力していることも感じ取ることができました。

未知のモノに遭遇すると誰しも不安を抱きます。職業については、能力や興味があるのかないのか。あり、またはなしとする場合の基準は何か。このような事柄を明示できないことから、不安が出てくるのではないでしょうか。

興味の有無やその程度は、仕事と自分の個性を自らの言葉で語ることが重要です。経験に基づき自分の言葉で語ることにより、外から与えられたものではなく、内発的な動機づけが可能になります。自分で自分の進む道を決めることにつながるからです。ほとんどの人がそれを行っていました。レポートからいくつかを紹介します。

（Sが予想に反して低いことについて）看護現場でのコミュニケーションは、情報収集を目的としている。情報収集という目的があれば、人と接することはできる。同じ領域に属する仕事や活動であっても、興味が高いものと低いものがあるということがわかった。仕事にはいろいろな側面があるので、看護師のさまざまな仕事にも興味が高い低いということは当然起こりうる。どの分野が劣っているのかではなく、自分の中でどの分野に興味が高いのかに着目して、それを強みとして活動していくことができる。

（上位3位はR－C。興味のもてた仕事との関係について）患者のベッド周辺の環境整備やバイタルサインを測ることはRとCの領域で、アセスメントはIの領域の仕事に当てはまると思う。

看護の仕事には、面白いと感じること・面白くないと感じることが人それぞれだが、あると思う。看護師になると決めたうえで、そのようなことは言っていられない。

（EAIが上位三つであることに関連して）看護計画の立案や、病院自体の組織の運営・経営にとても関心があり、興味がある。音楽療法やリハビリテーションなどは芸術的な要素を活用して…

（Sと予想したが、結果はICRが上位3位）実際に看護について専門的に勉強しているため現実味をおび、興味はなく、看護とは別の分野の職業にその時は興味を抱いていたのではないかと考えられる。（職務遂行の自信度を測る）C検査でS領域が3位に入ってきたの

は、実際に看護について専門的に勉強しているので、私自身の中で興味という段階ではなく、専門的に勉強しているという自信があるからS領域が（上位3位に）入ってきた。…会話などでの介入より…救命救急や手術室などC領域やI領域の分野の仕事に興味を抱いた。

自分の興味がSの社会的領域が強いということを知り、もっと興味をもち、努力すれば私の目指す看護師になれるという自信に繋げることができた。

（上位三つがRIAで、Sの得点レベルは普通）患者さんによって、会話によるコミュニケーションができない方や、…それぞれに合ったコミュニケーションに…あまりうまく関わりきれていないと感じた。それを補うために、その日起こった出来事や、患者さんが求めている情報などを事前に調べ、早く親しみをもってもらおうとしていた。これは研究的領域の活動で、社会的領域の活動を補おうとしていたと考えられる。

予想とは多少違ったものの納得のいく結果が出た。…（Iが3位になったという）全く予想もつかない結果は、…（大学入学後）看護という専門分野を勉強しだし、患者さんの病態等を分析したりすることが多くなり、今までと違った生活スタイルになったことから言えると思う。

（結果でSが2位になったことについて）S領域は低いほうだと考えていました。…初対面の人とは話せないからです。…人と接することが「苦手」であって「嫌い」というわけではない…

看護師といっても患者様の直接的な援助だけでなく、物品や情報の管理などさまざまな仕事があり、私には物を相手とするような仕事が好きなことがわかった。

興味がもてなかった仕事も、患者さんにより良い看護を提供するために工夫することを考えれば、興味がもてる仕事に変わることがわかった。

真剣に職業を考えているので、不安をもった人もいます。

（R領域の得点レベルが低かったことから）看護師は器具やたくさんの薬品などを扱い、そのことが人の命を左右するので、看護師になりたいという強い思いが薄れ、自信がなくなっていた。実習で、人が喜んでくれることに自分も喜びを感じることが確認できた。自分の就きたい職業に苦手な分野も含まれているが、あきらめるのではなく、努力して乗り越えていけばいい。

新たな自己を発見したとするレポートもありました。

表面化されていなかった私の興味を引き出してもらった気がした。…納得できる結果だった。…理学療法と作業療法の先生が…（個々の患者に合わせてリハビリを行っていることに）感心し、…患者様と同じ目線で見ることのできる療法士の職に興味をもった。この考えは…（3位であったSの）人と接すること、（1位であったIの）探索的、という項目に当てはまると思う。…この結果から、もう一度自分が本当は何がしたいのか、またどんなことが向いているのかなどを考え直そうと思う。

おわりに

「看護師としての適性があるのか」という不安の解消を一つの目的としてVRTを実施しました。不確かさがあれば、不安を抱くのは人の常です。しかし、不確かさへの対処法をもっていたり、不確かさの正体を知っていれば、不安を小さくすることは可能です。ホランドコードを使って個性と職業や仕事を語ることが、不安解消の有効な手立てになることを示すことができたと思います。

しかし、VRTやVPIを実施すればそれで十分ということではないと考えています。興味検査で人の特徴がわかり、同じ特徴をもった職業のリストを得たら、何らかの体験に基づき、それを確認することが大事です。実習やインターンシップ、ジョブシャドウなど、いろいろな方法が考えられます。

このことは、職業体験を職業経験にすると言い換えることもできます。ここでは、体験を「実際に何かをすること」、経験を「体験を自身の中で意味づける／位置づけること」と使い分けています。体験しただけでそれを消化していないと、次の機会にその体験を生かすことができません。体験した職業をVRTやVPIの興味検査を使って経験にすることにより、より効用の高いキャリアデザインが可能になるのではないでしょうか。

これは、現在職業に就いている人にも当てはまることだと思います。それに加えて、職業経験を語れる有職者が増えてその職業経験を語ることで、「頼もしい」若年世代がより一層頼もしくまた頼りになるのではないでしょうか。

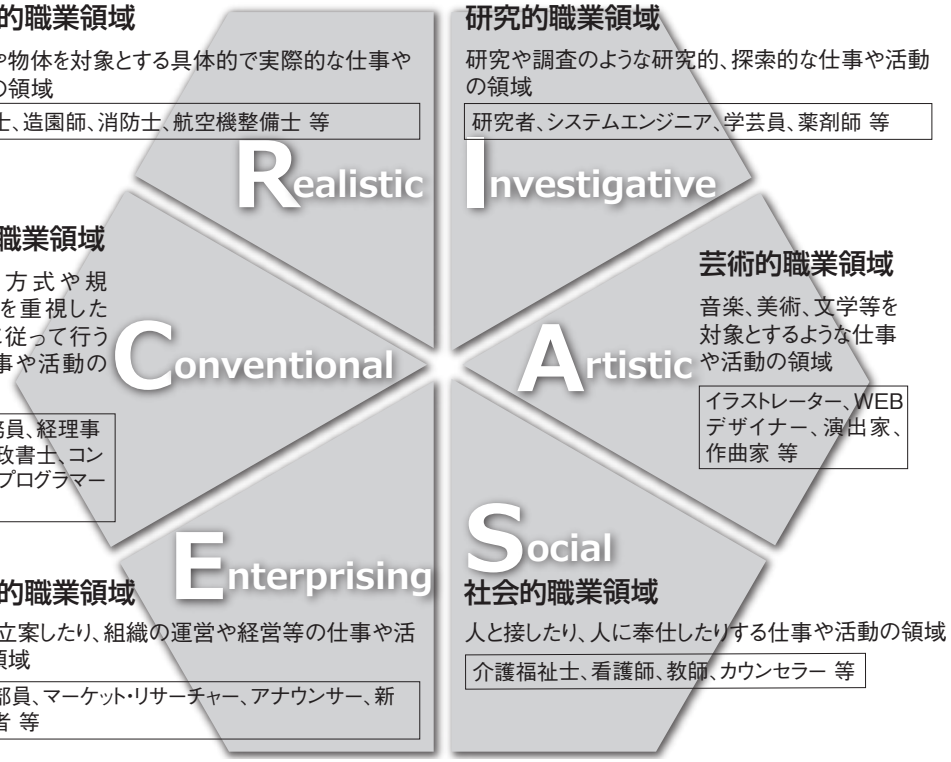
（「職業研究」2006より）

職業レディネス・テスト（VRT）

●**A検査**･･･職業に対する興味の傾向
●**B検査**･･･職業への興味･関心の基礎となる志向性
●**C検査**･･･職業に対する自信の傾向

職業レディネス・テストはA、B、Cの３つの検査から構成されています。
Ａ検査およびＣ検査では、アメリカの心理学者 J. L. ホランドによって類型化された**６つの職業領域（現実的、研究的、芸術的、社会的、企業的、慣習的）**への興味度・自信度がわかります。Ｂ検査では、**基礎的志向性（対情報、対人、対物）**への関心度がわかります。また、興味・関心を生かすことのできる具体的な職業例を知ることで、職業探索につなげます。
Ａ、Ｂ、Ｃ検査とも、標準得点としてパーセンタイル順位（例えばＡ検査では100人を興味の低いほうから並べた場合の順位）が用いられています。

A検査 C検査 で測定する６つの職業領域



現実的職業領域
機械や物体を対象とする具体的で実際的な仕事や活動の領域
建築士、造園師、消防士、航空機整備士 等

研究的職業領域
研究や調査のような研究的、探索的な仕事や活動の領域
研究者、システムエンジニア、学芸員、薬剤師 等

慣習的職業領域
定まった方式や規則、習慣を重視したり、それに従って行うような仕事や活動の領域
一般事務員、経理事務員、行政書士、コンピュータ･プログラマー 等

芸術的職業領域
音楽、美術、文学等を対象とするような仕事や活動の領域
イラストレーター、WEBデザイナー、演出家、作曲家 等

企業的職業領域
企画･立案したり、組織の運営や経営等の仕事や活動の領域
営業部員、マーケット･リサーチャー、アナウンサー、新聞記者 等

社会的職業領域
人と接したり、人に奉仕したりする仕事や活動の領域
介護福祉士、看護師、教師、カウンセラー 等

B検査 で測定する６つの基礎的志向性

D　対情報志向
各種の知識、情報、概念などを取り扱うことに対する志向性
- D1 情報を集める
- D2 好奇心を満たす
- D3 情報を活用する

P　対人志向
主として人に直接かかわっていくような活動に対する志向性
- P1 自分を表現する
- P2 みんなと行動する
- P3 人の役にたつ

T　対物志向
直接、機械や道具、装置などのいわゆる物を取り扱うことに対する志向性
- T1 物をつくる
- T2 自然に親しむ

厚生労働省編一般職業適性検査
［進路指導・職業指導用］（GATB）

15 種類の下位検査（うち 11 種類が紙筆検査＝筆記検査、４種類が器具検査）から、多様な職業分野で仕事をする上で必要とされる代表的な **9 種の能力（適性能）** 特徴がわかります。
また、GATB では、さまざまな職業を、その職業を遂行するうえで求められる適性能の種類と水準（所要適性能基準）により、40 のグループ（適性職業群）に分けています（手引 121 ページ参照）。各被検者の適性能得点と、40 の適性職業群の所要適性能基準とを照合し、得意な能力（適性能）を生かすことのできる具体的な職業例を知ることで、職業探索につなげます。
適性能得点は、全国平均が「100」となるように換算しています。

紙筆検査で測定する７種の適性能

適性能	内　容	典型的な作業	関連のある職業の分野
G 知的能力 General Intelligence	一般的理解力、推理、判断力、応用力	状況を分析判断する。工夫をしたり、新しいアイデアを出す。	調査研究、企画開発、営業、教育・福祉、販売サービス等
V 言語能力 Verbal Aptitude	言語的な理解力、文章読解、表現力	文章を読み書きする。言葉で伝達したり、説明を理解する。	著述編集、報道、広告宣伝、営業、教育・福祉、法務、事務関係等
N 数理能力 Numerical Aptitude	数的な処理能力、計算力、数的推理力	各種計算、集計作業、数量管理・分析、金銭管理などを行う。	調査研究、工学技術、測定分析、情報処理、経理会計等
Q 書記的知覚 Clerical Perception	文字、記号などの比較弁別力、一般的な注意力	印刷物の校正、帳票の記載やチェック、表の作成等の作業を行う。	事務全般、運転監視、警備保安、看護、対個人サービス等
S 空間判断力 Spatial Aptitude	立体的、構造的な理解力、図面から実物をイメージする力	設計図を理解したり作成する。造形的な作業を行う。	工学技術、製図、情報処理、デザイン美術、建設工事、熟練技能等
P 形態知覚 Form Perception	形、図形などの比較弁別力	裁断、切断、切削、貼付け、取付け、接合、組立等の作業を行う。	製図、建設工事、デザイン技術、加工組立、造形、手工技能等
K 運動共応 Motor Coordination	目と手の共応、迅速で正確な動作を行うコントロール力	キーボードの操作、素早い繰り返し作業を行う。	OA機器オペレータ、簡易事務、機械操作、加工組立等

器具検査で測定する２種の適性能

適性能	内　容	典型的な作業	関連のある職業の分野
F 指先の器用さ Finger Dexterity	指先で細かい物を正確に扱う能力	精密作業、小さい物を指先で取り扱う作業を行う。	機械操作、手工技能等
M 手腕の器用さ Manual Dexterity	腕や手首を使って物を巧みに扱う能力	ハンドルやレバーを操作する作業、道具を巧みに扱う作業を行う。	機械・装置の運転操作、加工組立、造形、理容美容等

キャリアコンサルティングに必須のアセスメント・ツールの有効活用をマスターする

キャリア・コンサルティング セミナー

個人主導のキャリア形成が求められる中、それを支援するキャリアコンサルティングの重要性は、社会でも広く認められつつあります。それとともにキャリアコンサルティングに不可欠なアセスメント・ツールも一層効果的な活用が期待されています。雇用問題研究会では、当研究会で発行している各種アセスメント・ツール、心理（適性）検査を効果的にご活用いただくために、セミナーを開催しております。各種ツール、心理検査等の理論・実施方法・活用方法等を解説いたします。

基礎理論コース（オンラインセミナー）

対　象	●中学校・高等学校の進路指導・キャリア教育担当者、スクールカウンセラー ●大学・短大・専門学校のキャリア支援・就職指導担当者 ●職業安定・職業能力開発機関の担当者、職業相談・就業支援・教育相談機関等の担当者 ●キャリアコンサルタント、キャリアカウンセラー、産業カウンセラー及びそれらを目指している方
受講料	各コース 10,000円（税込・資料代を含む）
講　師	本間啓二氏（日本体育大学 名誉教授）

コース	内　容
KN式クレペリン **7/31**（月）10:00〜12:30	KN式クレペリン作業性格検査は、２数の加算を行うことによって得られる作業量や作業曲線、作業の質などの結果から、個人の性格面にかかわる特性を総合的に捉えようとするものです。この検査を実習し、判定結果の読み方等を説明します。 また、各種の性格検査について概説し、個性理解について考えます。
VRT **8/1**（火）10:00〜12:30	職業レディネス・テスト（VRT）は、「自己理解を通じて職業探索へ、職業探索を通じて自己理解へ」という理念のもと、若者（中学・高校生をはじめ、大学生、社会人など）の職業への興味・自信の方向性をキャリア発達の観点から捉えようとするものです。 ホランドの職業選択理論を踏まえて、その実施と活用について説明します。
GATB **8/2**（水）10:00〜12:30	厚生労働省編一般職業適性検査（GATB）は、多様な職業分野で仕事をする上で必要とされる代表的な９種の能力（適性能）を測定することにより、自己理解や適職領域の探索等、望ましい職業選択を行うための情報を提供します。その実施方法と採点の方法を説明します。 また、職業適性の理念や結果の解釈について説明します。
キャリア・コンサルティング **8/3**（木）10:00〜12:30	アセスメント・ツールを活用したキャリアコンサルティングの考え方や進め方について説明します。 また、各ツール（VRT、GATB）の結果の解釈について、事例研究を通して学びます。受講生によるグループワークを取り入れたコースとなっています。 ●「VRTコース」及び「GATBコース」を修了された方が対象です。

※ご希望のコースを自由に組み合わせて受講できます。ただしキャリア・コンサルティングは、「VRT」及び「GATB」コースを受講された方に限ります。

キャリア・インサイトの機能と活用

キャリア・インサイト 講習会

オンライン CAREER Insites®

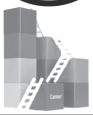
キャリア・インサイトは、利用者自身がコンピュータを使いながら、職業選択に役立つ適性評価、適性に合致した職業リストの参照、職業情報の検索、キャリアプランニングなどを実施できる総合的なキャリア・ガイダンス・システム（CACGs）です。その機能と活用について習得します。

◀開催日程等、詳しくはホームページでお知らせいたします。
お申込みもサイト内専用フォームからできます。
https://www.koyoerc.or.jp

一般社団法人
雇用問題研究会
〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-14-5 ●電話 03-5651-7072

2023年リニューアル！4,800名受講済

【CCA】キャリアコンサルタント向け知識講習（Web）



１対１の対人支援にとどまらず、組織開発・組織活性化、人事との協業といったテーマを真正面から見据えたWeb学習（厚労大臣指定キャリアコンサルタント更新講習）です。実践に基づいた講師陣の知見や豊富な事例が、実際のキャリア支援の現場で役立てられることを強く意図しています。

講師：慶應義塾大学名誉教授　花田光世先生　ほか　各領域の第一線の学識者・専門家による講義

厚労大臣指定更新講習40講座！ 詳細は学習専用サイト 「CCAのキャリアコンサルタント学習情報」 で検索

特定非営利活動法人キャリアカウンセリング協会　研修担当　Tel 03-3591-3569

〜 CCA は、“プロ（専門家）のキャリアカウンセラー／キャリアコンサルタント”の養成、スキル向上、指導者養成までを、体系的に行っている専業機関です 〜

CCA CAREER COUNSELING ASSOCIATION

VRT 職業レディネス・テスト

VOCATIONAL READINESS TEST

編著■独立行政法人 労働政策研究・研修機構
対象■中学・高校・高専・専門学校・短大・大学・職業訓練校・職業相談機関等

職業への興味・関心を通じて「自分自身」を考えることをサポート

検査の構成

- ●B検査 ―― 基礎的志向性
- ●A検査 ―― 職業興味 ―― 職業志向性
- ●C検査 ―― 職務遂行の自信度 ―― 職業志向性

6分類のパーソナリティ・タイプで自己理解

- R●現実タイプ …… 機械や物を対象とする具体的な活動
- I●研究タイプ …… 研究や調査などの活動
- A●芸術タイプ …… 音楽、美術、文芸など芸術的な活動
- S●社会タイプ …… 人と接したり、人を援助する活動
- E●企業タイプ …… 新しい企画を考えたり、組織を運営する活動
- C●慣習タイプ …… 定まったやり方に従って行う事務的な活動

1名分料金(税込)

中学生 高校生

- ●問題用紙
- ●回答用紙(中学生用／高校生以上用)
- ●結果の見方・生かし方

300円

- ●判定料(プリント) …… 340円

640円

大学生 社会人

- ●問題用紙
- ●回答用紙(高校生以上用)
- ●結果の見方・生かし方
- ●大学生等のための職業リスト

360円

- ●判定料(プリント) …… 300円

660円

●手引 ……1,430円

発行所
一般社団法人 雇用問題研究会
〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-14-5 日本橋Kビル2F
https://www.koyoerc.or.jp 電話03-5651-7071

683157